

2024年度第2回明石市文化財保護審議会次第

日時：2025年（令和7年）2月28日（金） 14時00分～16時00分

場所：複合型交流拠点ウィズあかし学習室 701B

1. 開会

2. 議事

（1）市指定文化財の指定について（答申案の検討）

・延命寺の仏像

3. 報告

（1）文化財ウォークの実施について

（2）中崎遊園地について

（3）旧安藤家住宅について

（4）生船関係資料の展示について

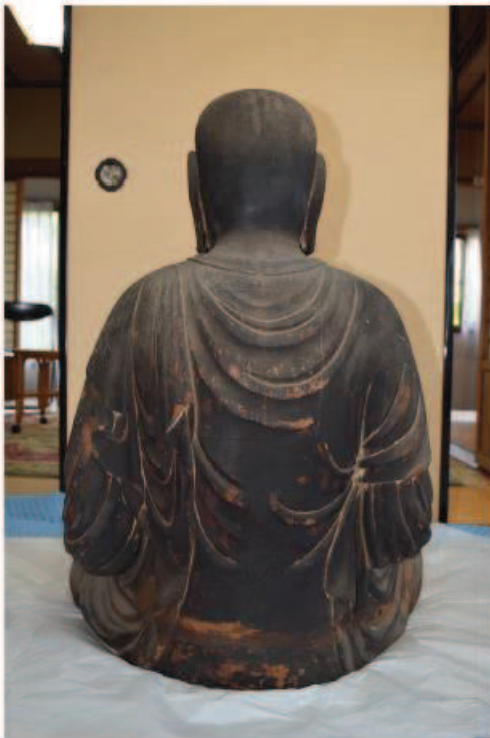
（5）2024年度埋蔵文化財発掘調査事業について

（6）文化財関係展示について

（7）その他

4. 閉会

明石市魚住町金ヶ崎 延命寺 地藏菩薩坐像





像底

明石市魚住町延命寺 地蔵菩薩坐像 所見

調査日 令和 6 年（2024）6 月 4 日

記録者 兵庫県立歴史博物館 ひょうご歴史研究室研究員 神戸佳文

- | | | |
|---------|------------------|-------|
| (1) 名 称 | 木造地蔵菩薩坐像 | 1 軀 |
| (2) 種 別 | 彫刻 | |
| (3) 所在地 | 明石市魚住町金ヶ崎 898 番地 | |
| (4) 所有者 | 延命寺 (浄土宗) | |
| (5) 像 高 | 75.7cm | |
| (6) 時 代 | 平安時代前期 (9 世紀) | |
| (7) 概 要 | 一木造 (内刳なし) | 古色、彫眼 |

法量 (cm)

像 高 75.7 (髪際高 65.3)
頂一顎 24.8 (面長 17.9) 面幅 14.9 耳張 17.6 面奥 17.8
胸奥 (右) 12.1 胸奥 (左) 20.9 腹奥 21.8 肘張 47.9 膝張 58.9
坐奥 (膝まで) 41.7 坐奥 (裳先まで) 52.7

形状

右肘を曲げて錫杖しゃくじょうを持ち、左肘も曲げて掌の上に宝珠ほうじゅを載せる。左足を上にして結跏趺坐けっかふざし、左足先は衣で覆われている。頭部は円頂で僧形を示す地蔵菩薩坐像である。胸を張り、背を後ろへ反らすような姿で坐す。体部全体に暗褐色の古色が塗られている。

構造

丸太の一材を縦に半分に割り、木心を像の前にして、像を彫刻し、両腕の手首あたりまで、体部材と一材とする。内刳うちぐり (像の干割れを防ぐために像内を彫ること) はされていない。(なお木心は腹前を通っているが、後補材に置き換えられている)、像底の腰まわりは、底の朽損した部分を切り取り、高さ約 8 cm の材を左右と後ろの 3 材を補って修理している。脚部は、横一材を寄せており、底部は内刳される。裳先 (後補) はさらに一材を寄せている。両手先 (後補) は別材を袖口で寄せている。材は針葉樹と思われる。

後補の部分

額の水晶製の白毫びやくごう、両手先は中世頃の後補と思われる。右手の第 4、5 指先は江戸時代の後補、左手は宝珠の台座まで含んで一材からなり、第 2、3 指先は亡失する。頭部など

のひび割れは、乾漆（漆にオガクズなどを混ぜてペースト状にしたもの）で埋めている。腰部の修理は前述したとおりで、江戸時代に行われたと考えられる。

持物の錫杖、宝珠、銅製透かし彫りの胸飾（首飾り）と瓔珞、裳先、腰回りの三つの材、脚部との接合部の体部の右前と中央の材、光背、台座は江戸時代の後補と思われる。

保存状況

像の表面の一部にスレや古色のはがれがあるが、像本体の保存状況は良好である。

伝来について

- 1、延命寺本堂の須弥壇上の厨子に安置されている。制作仏師等は不明である。
- 2、現在の後補の大部分、台座、光背の新調は、江戸時代に施されたと考えられるが、台座の裏側には銘文は記されていない。

制作時期等について

面相は、森厳で精気に富み迫力がある。体部は胸部が盛り上がるように厚く造られ、衣文（衣の彫り）は深く、また翻波式衣文（太い衣文の間に先の鋭い衣を彫りだす）がみられる。これらの特徴は平安時代前期の特徴をよく示していることから平安時代前期（9世紀）に造立されたものと考えられる。

所見

上記の特徴、作風から平安時代前期（9世紀）の作と考えられ、腰回り等は江戸時代の後補であるが、全体に当初の姿をよく留め、保存状態も良好である。平安時代前期の仏像として市内最古であり、文化財的な価値は極めて高いと考えられる。

その他

像の撮影に際しては、持物の錫杖と胸飾をはずしている。



延命寺 木造地藏菩薩坐像







第3回 あかし歴史のまち「文化財ウォーク」
～「近代化」と「時のまち」を物語る文化財を歩く～

「あかし文化芸術月間2024」の開催を記念し、歴史のまち「あかし」の魅力を多くの皆様に知っていただくため、あかし歴史のまち「文化財ウォーク」を実施します。

本市では、令和3年度に策定した「明石市文化財保存活用地域計画」のもと、歴史文化の証である文化財を大切に保存するとともに、市内外に広く「歴史のまちあかし」の魅力を発信し、まちの発展につながるよう、文化財のさらなる活用を進めています。

第3回目となる今回は、「近代化」と「時のまち」の歴史を物語る文化財を専門家やボランティアと一緒に巡り、身近に明石の魅力を体感できるコースです。

日 時：2024年（令和6年）11月9日（土） 9時30分～12時30分

主 催：明石市

行 程：9時30分集合 市立文化博物館集合

明石神社「明石城太鼓」

月照寺

子午線標示柱

柿本神社

天文科学館（日本標準時子午線関係資料など見学）

神明国道子午線標識

日本中央標準時子午線通過地標識

中崎公会堂（建物内を見学）

中崎遊園地ラヂオ塔（解散）

定 員：20名（小学生以上）

参加費：300円（資料代・保険料）

案内人：市歴史文化財担当職員ほか

協 力：ぶらり子午線観光ガイド連絡会 ヘリテージ明石 あかし市民図書館

明石市立天文科学館 明石観光協会

応募締め切り：10月18日（金）まで

応募方法：市ホームページの申込フォームまたは往復ハガキで申し込む。

必要事項：イベント名、参加者全員の氏名、ふりがな、年齢（学年）、郵便番号、住所、電話番号、当日の緊急連絡先、参加人数（1組4名まで）

※応募が多数の場合は抽選で参加者を決定します。

問い合わせ：明石市文化・スポーツ室歴史文化財担当

〒673-0846 明石市上ノ丸2丁目13-1

電 話 078-918-5629

メール rekishi-bunkazai@city.akashi.lg.jp

コース写真



①明石神社（明石城太鼓）



②月照寺



③子午線標示柱



④日本中央標準時子午線通過地標識



⑤中崎公会堂（外観）

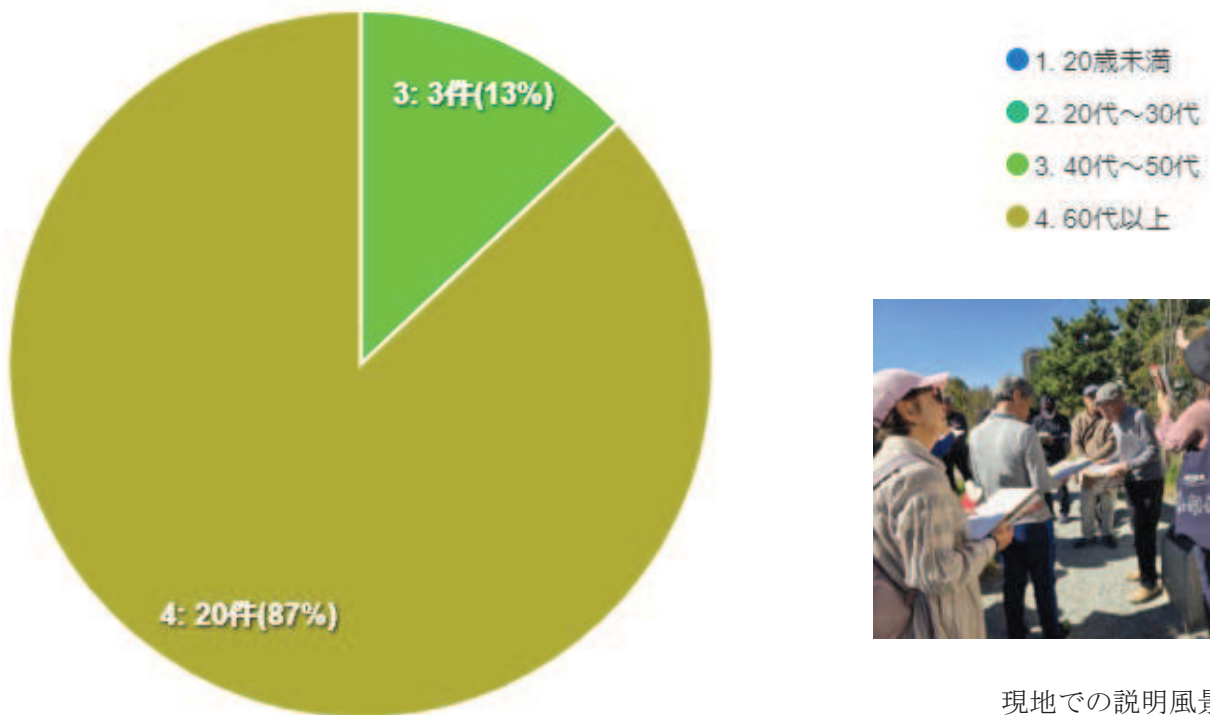


⑥中崎遊園地ラヂオ塔

あかし歴史のまち「文化財ウォーク」 アンケート（抜粋）

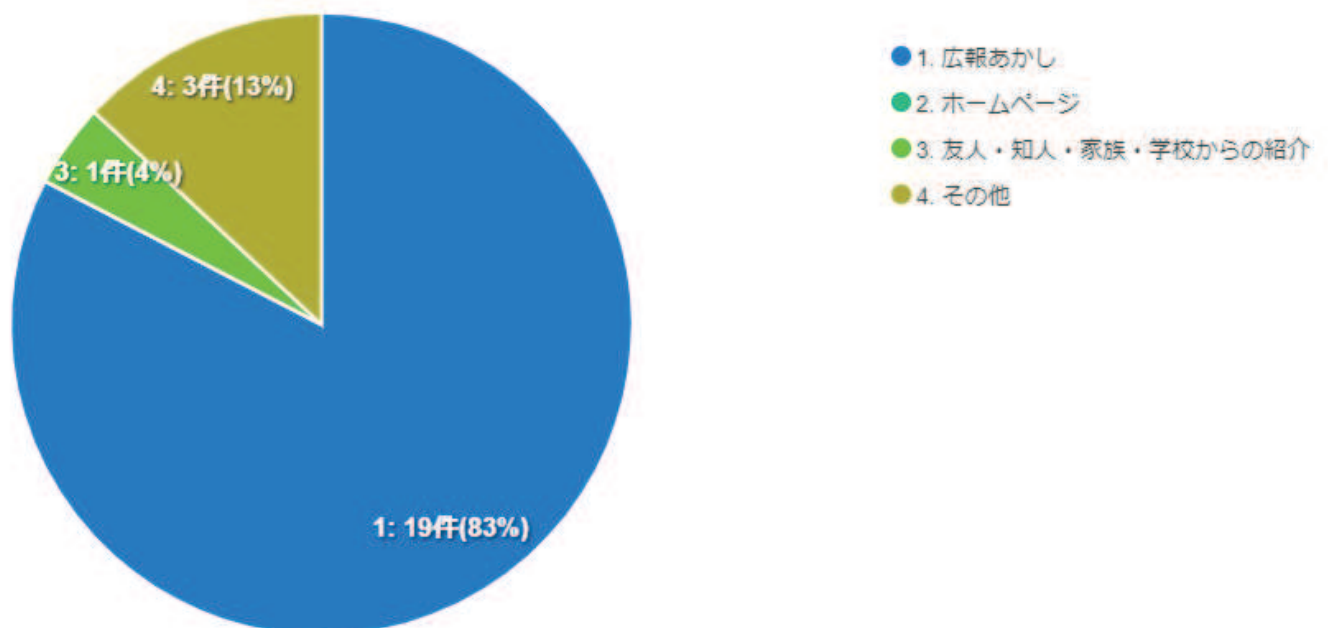
アンケート回答数：23 名（同行者含む）

1. ご年齢

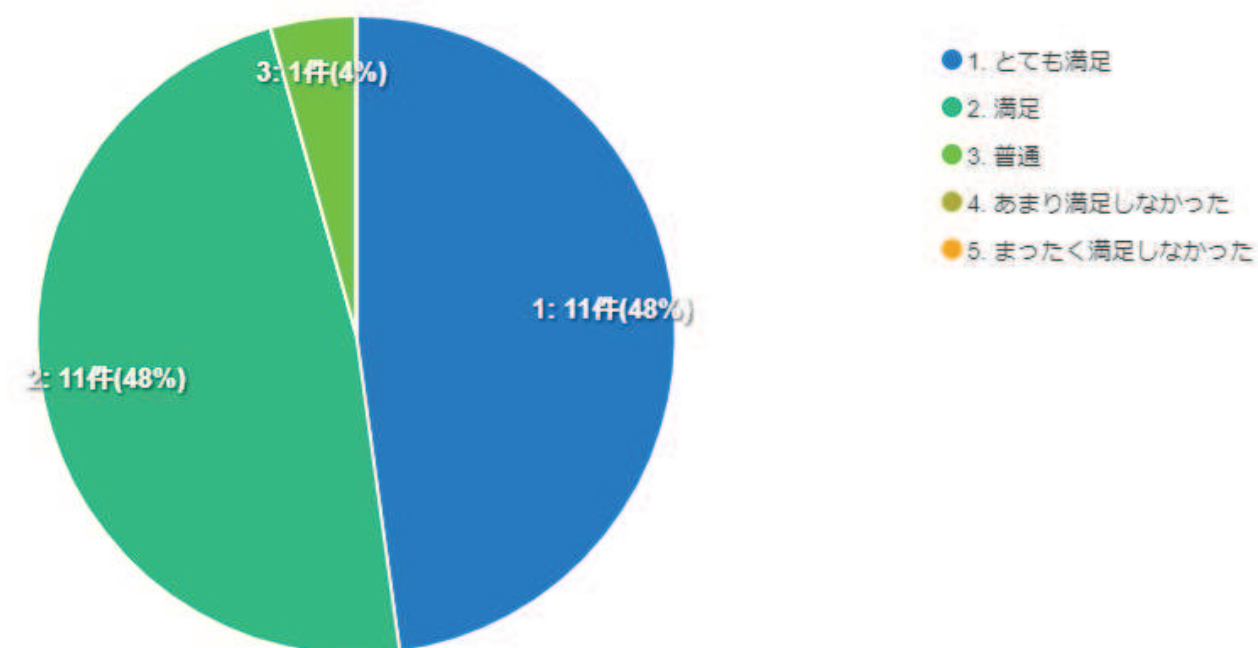


現地での説明風景

2. 今回のイベントを、どのようにして知りましたか？（複数回答可）



3. 今回のイベントについて、満足できましたか？



理由

歴史ある明石について学ぶ良い機会でした。ありがとうございます。
普段通るところでも説明してもらおうとまたちがってみえてきて、とてもおもしろかったです。
ずっと明石に住んでいますが、知らない事ばかりですごく良かった。
普段通ってもくわしく歴史等知る事もなく見すごしていたのをくわしく知った。
案内して下さる方が、わかり易くていねいでよくわかりました。楽しかったです。
日頃歩いていたところに子午線の記念標識があったりとタメになった。

4. 今回のイベントで印象に残った場所、内容はどのようなことですか？

中崎公会堂、建築技法で時代のトレンドがわかり大変学びのある説明でした。
明石神社と太鼓の詳細、子午線に関する詳細がわかり興味深かったです。
子午線の標識もしらないこといっぱい良かったです。
中崎ラヂオ塔、中崎に遊園地があった事が新鮮。

5. 今回のイベントについての感想、参加してみたい歴史にまつわるイベントなど、ご自由にご記入ください。

転居して2ヶ月、明石の町を、明石で生まれたガイドさんからお話が聞けてとても楽しかったです。
楽しく参加させていただきました。次回も是非参加したい。
明石の寺社巡りがあれば参加したいです。
好天のなか説明者の方々に感謝申し上げます。
機会があればまた参加したいと思いました。見逃していたのかもしれませんが、もう少し広報があっても良いかもしれません。

(2)中崎遊園地について

中崎遊園地は、江戸時代の明石城築城にあわせ、明石港を掘削した際の土砂を盛り上げてつくられた築堤の部分を中心とした場所である。周辺には、中崎遊園地ラヂオ塔と明石市立中崎公会堂がある。

(これまでの取組み)

平成12年：中崎公会堂の明石市都市景観形成重要建築物指定

平成24年：中崎公会堂の国登録有形文化財登録

平成25年：ラヂオ塔の国登録有形文化財登録

令和5年：中崎公会堂の明石市指定有形文化財指定

令和6年：第3回あかし歴史のまち文化財ウォークを開催し、中崎公会堂、ラヂオ塔を現地で解説した。今回のコースの文化財などを解説するリーフレットを作成予定。

(周辺の文化財)

中崎遊園地ラヂオ塔

平成25年3月29日 国登録有形文化財

相生町1丁目119番地5

塔の上部に受信機やスピーカーを置いて、ラジオ放送を共同で聴くための施設である。日本でラジオ放送が始まったのは大正14年(1925)である。ラジオを普及させるため、昭和の戦前期に各地の公園や広場などに建てられた。京都の円山公園のラヂオ塔が評判をよび、明石では昭和12年(1937)9月に建てられ、戦後家庭用ラジオが普及するまで使われた。塔には「ラヂオ塔」と銘記されている。

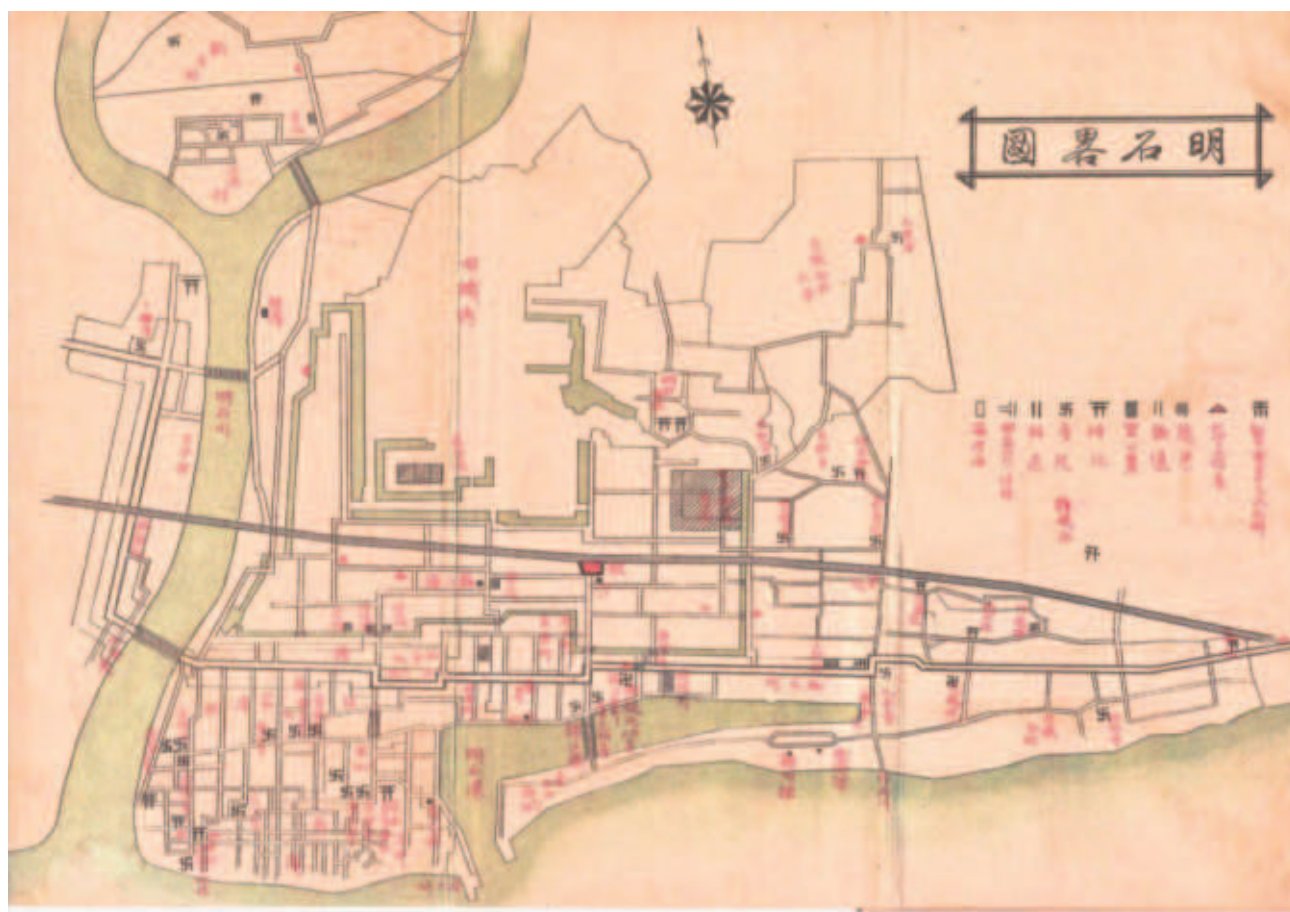
明石市立中崎公会堂

令和5年3月27日指定 明石市指定有形文化財

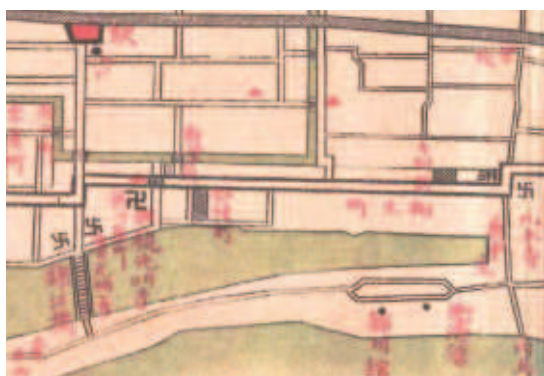
相生町1丁目119番地19

明治44年(1911)に中崎海岸に建てられた明石市内最古の公共施設である。設計・監督は旧明石郡出身で当時奈良県技師であった加護谷裕太郎で東大寺大仏殿の修理も担当している。奈良・鎌倉時代の建築様式を取り入れるとともに、木造トラス構造を採用し、柱をもたない大規模な大広間を構築しており、建築技術史的にも貴重である。柿落としに当時朝日新聞社に勤めていた夏目漱石が招かれ講演した。昭和58年(1983)の大改修で建築当時に近い姿に整備されている。

・ 衝濤館について



『明石と舞子』(明治44年、明石市所蔵)



『明石と舞子』(部分)



絵葉書「衝濤館庭園ノ遊歩」(明石市所蔵)



67 須磨舞子明石附近略図・明石町略図（須磨舞子明石遊覧案内 全 附淡路岩屋案内）

大正5年(1916)、当館所蔵

翌年(大正6年)開通の兵庫電気軌道(現山陽電車)の軌道予定線が描かれる。この頃に埋め立てが進んでいたはずの外堀もほぼ完全なかたちで描かれている。

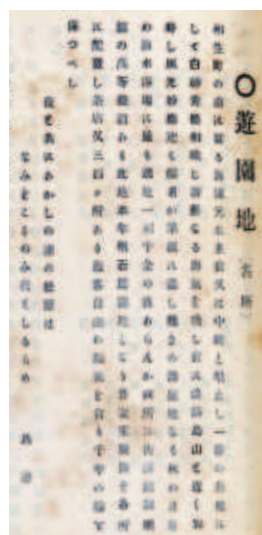


68 大日本職業別明細図第三一二号兵庫県（明石市部分）

昭和7年(1932)、当館所蔵

駅前に山口旅館があり、駅から南に延びる細工町にも商店が並ぶ。中崎には錦明館などの旅館がみえる。

※明石市文化・スポーツ室歴史文化財係編『企画展 明石藩の世界Ⅸ 一幕末維新と人々の暮らしー 展示図録』（2021年、明石市立文化博物館）41頁



【参考】明石舞子の古今誌より
遊園地（明石遊園地之光景）

明治36年(1903)、当館所蔵

明治36年、中崎に「明石遊園地」が設けられた。左の写真は明石清文館(石巻清文)による撮影。中崎の砂嘴上から東を向いて写しており、右には明石海峡、砂嘴の左には明石港の湾内の一部が写っている。

図版74は港湾内の堀川にかかる橋から東を向いたものだろうか。堀川の奥にもう一本の橋が見える。



73 明石海岸（中崎遊園地）（絵葉書）
(明治36年(1903～)、当館所蔵)



74 播州明石の浦其七（絵葉書）
明治39年(1906)、当館所蔵



75 明石郡公会堂（絵葉書）
(明治44年～大正8年(1911～1919)、当館所蔵)



76 明石海浜錦明館（絵葉書）
(明治40年～大正6年(1907～1917)、当館所蔵)

明石滞在の旅行客が出した絵葉書。通信文には「波しづかなる海岸のほとりにある錦明館の二階にて」とある。



77 明石海岸の絶景（絵葉書）
(大正7年～昭和7年(1918～1932)、当館所蔵)

(3)旧安藤家住宅について

この住宅は、明石市材木町に所在する。大正 11 年に明石の実業家である平野家の住宅として建てられた。その後、安藤家の住宅として使用された。安藤家は戦時中に町内会長をつとめていた。住宅内には戦前から戦後に至る町内会や安藤家の関係資料が残されていた。現在、大学や明石市によって調査・整理が進められている。

令和 5 年度には文化財ウォークでの見学地として紹介し、「船町の古民家 文化祭」など戦前の明石の町並み・文化・産業などや古民家再生に関する展示会イベントも開催されている。明石市で数少ない和風と洋風の特徴をあわせ持つ大正期の建築物である。



外観(西側から)



勝手口門と土蔵(西側から)



2 階和室



2階洋室



2 階から南側を望む

Presented by Sumiken & KDI

街、明石。
変えたこの町も、
ばれていた。

「過去から現在に
残っている家がある。

町の家。』
として賞を授いた
たこの邸宅は、第二次
も奇跡的に焼け落ちず、
姿を保ち続けている。

細く時代を繋ぎ繋ぐような邸宅には、
に言い表すことができない歴史が詰まっている。



100年が織り成す コントラスト

後年に安藤氏が引き取り数十年。現在は空き家と
共に空き家(地域資源)を再生し、まちを活性化させる
人。すまいの未来研究機構が「明石旧船町の家の
をはじめとした関西の大学生、不動産屋、建築士、
と連携を計り、全く新しい活用方法を模索している。



利用案内

開館時間
10:00~16:00

※開館時間が変更になることがあります。

開館日

2023年11月18日(土)	12	13	14	15	16	17	18
11月19日(日)							
11月20日(水・祝)	19	20	21	22	23	24	25
11月25日(土)							
11月26日(日)	27	28	29	30	1	2	3

入場料

施設内イベント等の参加費含め、全額無料
※開館時間外は250円(税込)

アクセス

〒673-0893 兵庫県明石市材木町6-21

交通のご案内

- JR「明石駅」南口から徒歩10分
- 特設バス「明石本町」バス停から徒歩3分

(※開館日は駐車場が狭いため、車でのご来館はご遠慮ください)



お問い合わせ

すまいの未来研究機構

〒651-2113 兵庫県神戸市西区伊川谷町有楽1-655-3

Mail: info@sumiken.jp

Tel: 078-974-3737

HP: <https://www.sumiken.jp/index.html>



その他

- 施設への入場、及びイベント参加は予約が必要です。
- 有料の内部は多人数で鑑賞する場合があります。ご予約人数20名。
- この事業は文化庁の地域文化財活用推進事業の補助事業です。
- この事業は明石市文化財活用推進協議会に協賛する事業です。
- この事業は財団と連携する中野5年度地域文化財活用推進事業の補助事業です。

主催等詳細

主催 一般社団法人 すまいの未来研究機構
協賛 神戸市工科大学 東山町まちづくり委員会
共催 明石市文化財活用推進協議会
後援 明石市

明石旧船町の家 文化祭

明石 旧船町の家 文化祭

2023.11 10:00-16:00

18th 19th
23rd 25th 26th



明石 旧船町の家



大正と令和。築

街と共に発展を遂げた
現在は材木町と名を
かつては「船町」と呼
そんな旧船町において
形をまで存在感を放ち
それがこの「明石旧船
1923年に当時青洲家
平野氏により建築され
世界大戦による空襲で
100年後の現在もその
過去と現在、大正と令
ただ「古民家」と一括

古民家再生プロジェクト

100年前に平野氏が建てた邸宅を
なっている。その折、地域の人々と
ことを目的とした団体「一般社団法人
再生に着手。神戸芸術工科大学
ジャーナリストなど、多種多様な人々



1F

明石旧船町の家 100年の歴史に満ちた 各部屋とイベントのご紹介



和室ホール 各種ワークショップや、明石型生動の模型・資料を展示。また、明石にまつわる貴重な歴史映像を映し出します。



中庭 灯籠や生け簾などは当時のままに、歩行用の木造通路を増設した中庭。ぜひ写真撮影にご利用ください。



こたつ部屋 薪あふれる薪こたつが特徴的な部屋。明石文化博物館と関西大学・高久ゼミによる展示を実施します。



トイレ 神戸芸工大の学生が海産物で集めた貝殻を、レジン(合成樹脂)でDIY加工した生まれ変わったトイレは必見。



台所 明石船人「源助のふし」にちなみ、2.5坪の台所に30分間、または台所巻きを500円(税込40分)で販売!



1F洋室ホール 明石市内の文化財・資源を活用し、まちづくりや文化に寄与する団体である「ヘリテージ明石」による展示を実施。明石の貴重な歴史に触れることができます。また、18(土)・19(日)・23(木・祝)にはお子様向けのイベントも開催します。

明石旧船町の家MAP



11/18・19・23・25・26日5日間のスケジュール

18日(土)

- F 1F洋室ホール** 10:00 - 16:00
○アートマルシェ
-おもちゃボードゲームイベント「本のおもちゃ ころころ」(高田由美) ※12時まで
-カードリーディング(高森聖香)
-花巻絵画(井上妙子)
- A 1F和室ホール** 11:30
講演「明石旧船町の家について」
担当MC: 明石ヘリテージ/吉岡公直、明石型生動委員会/金井代表
内容: 明石旧船町の家について、あかし文化財の現状の一瞥として説明する。
- A 1F和室ホール** 13:00
○スマイルウクレレ部 演奏会
ご披露は5曲 聞いていただくみな様も一緒に歌ってください。

19日(日)

- A 1F和室ホール** 10:00
○ふすま・障子の張り替え体験
- F 1F洋室ホール** 10:00 - 16:00
○アートマルシェ
-カードリーディング(高森聖香)
-花巻絵画(井上妙子)
-スマイルウクレレ部(堀江寛子) ※演奏時間30分 一曲目300円
- G 2F広間** 10:00 - 12:00
○神戸芸術工科大学Presents「まち研アートフェスタ」
-ランタン作り教室-障子紙を使ったランタン作り
-レジンキーホルダー作り教室-海産物で集めた貝殻を使ったキーホルダー作り
-ボードゲーム教室-学生のオリジナルボードゲーム4種類 ※14時まで

- A 1F和室ホール** 14:00
ワークショップ「まちづくりアカデミーin本町を振り返って」
担当MC: 神戸新聞社/橋本、関西大学/高久ゼミ、明石文化博物館
内容: 神戸芸工大の学生と地域の方で建築物の活用について話し合う。

23日(木・祝)

- F 1F洋室ホール** 10:00 - 16:00
○アートマルシェ
-おもちゃボードゲームイベント「本のおもちゃ ころころ」(高田由美)
-カードリーディング(高森聖香)
-花巻絵画(井上妙子)
- A 1F和室ホール** 11:00
○スマイルウクレレ部 演奏会
ご披露は5曲 聞いていただくみな様も一緒に歌ってください。
- A 1F和室ホール** 14:00
講演「明石旧船町の家 - 文庫を紐解く -」
担当MC: 神戸新聞社/橋本、関西大学/高久ゼミ、明石文化博物館
内容: 明石旧船町に現れていた歴史資料について調査結果を発表する。

25日(土)

- A 1F和室ホール** 13:00
講演「明石ヘリテージ 明石旧船町のお話」
担当MC: すまいる/木内代表、神戸大学/高久ゼミ、明石文化博物館
内容: 明石旧船町に現れていた歴史資料について調査結果を発表する。

26日(日)

- G 2F広間** 10:00 - 12:00
○神戸芸術工科大学Presents「まち研アートフェスタ」
-ランタン作り教室-障子紙を使ったランタン作り
-レジンキーホルダー作り教室-海産物で集めた貝殻を使ったキーホルダー作り
-ボードゲーム教室-学生のオリジナルボードゲーム4種類 ※14時まで
- A 1F和室ホール** 14:00
ワークショップ「そもそも、空き家問題とは?まちづくりについて」
担当MC: すまいる/木内代表、神戸大学/高久ゼミ、明石文化博物館
内容: 大学を一緒に、空き家とまちづくりについて基本的なことを考える。

2F



2F広間

築100年の「明石旧船町の家」そんな古民家の利活用を神戸芸術工科大学 地域デザイン学科の3チームがそれぞれ企画展示。どのチームのアイデアが良かったか、ぜひみなさんの声を聞かせてください。また神戸芸術工科大学の写真サークルから有志で作品集とポスターカードの販売/展示を行います。企画展示、写真販売/展示はどちらも6日間無料開催しますのでご覧ください。



▲企画展示、写真販売の他、蔵などから出てきた貴重な資料も展示。

Pick Up Event

丸谷市長・辰巳議員と考える 空き家問題とまちづくり



文化財部部長(11/25日)の企画したワークショップ「そもそも、空き家問題とは?まちづくりについて」に明石市長・丸谷市長と市議会議員の皆さんが参加し、大学生から建築士、明石市議会議員まで、みなでこの問題について考えるイベントです。みなさんで考えてみましょう!

※イベントの内容は予告なく変更する場合がございます。

(4) 生船関係資料の展示について

明石市では明石型生船の価値を発信する取り組みをおこなっている。令和4年度には企画展「明石の木造船」を開催し、その中で明石型生船を模型や写真などで紹介した。令和5年度には、旧安藤家住宅で明石型生船の解説や写真類をパネルにし、生船によって活況を呈した当時のまちの様子を紹介する機会を設けている。

昨年、大分県佐伯市で40年以上活躍していた最後の明石型生船が現役を終え、解体された。その際に、生船研究会のご協力で解体された船の部品の一部や生船が稼働していたころの写真、航海記録などを文化博物館で保管することとなり、館内に「明石型生船コーナー」を設置した。



展示風景(船名板、飾り板など)



展示風景(模型、写真など)



第4章 明石型生船

漁業の盛んな明石では漁船が多く活躍していたことは知られていますが、そんな漁船が獲ったものを運ぶ活魚運搬船(生船)も、また、明石海峡を行き交っていました。獲れた魚を新鮮な状態で消費地へ運ぶため、速さを追求したこの船に転機が訪れたのは明治時代のことです。櫓や櫂を使って人力で進む船の速さに限界を感じ、発動機を据付けた木造船が作り出されたのです。この発動機付活魚運搬船は改良を重ね、やがて明石型生船と呼ばれます。

合ノ子形生魚運搬船第五明社丸

明治40年(1907)頃に発行された木下鉄工所の「船舶用最新式無聲石油発動機」カタログに掲載されたものです。

この船は明石郡明石町の神出鐵蔵氏の持船で木下鉄工所製の20馬力石油発動機を搭載した明石型生船と称される以前の活魚運搬船であると思われます。



20 写真「合ノ子形生魚運搬船第五明社丸」 明治40年(1907)頃 阪神内燃機工業株式会社所蔵

明石型生船模型 令和4年 臼井 晃(Shipyards Dwarf)製作

鹿児島の大丸という明石型生船をモデルに製作された99t明石型生船の模型です。船室内部や生簀にいたるまで細緻に表現されており、活魚運搬という仕事をする上で、生船に施された理にかなった工夫を確認することができます。



21 明石型生船模型 個人蔵

明石型生船の部材(舳先)^{へさき}

長崎県で活躍していた明石型生船 第十一泰栄丸の舳先にあった船首飾りです。縁起物の一富士二鷹三茄子と前所有者であった戸高水産の印が彫られています。



22 明石型生船舳先飾り板 個人蔵

(5)2024年度埋蔵文化財発掘調査事業について

No.	遺跡名	所在地	事業名	開発面積 (㎡)	調査面積 (㎡)	調査期間
1	明石城武家屋敷跡 大明石町 第46地点 (OA46-2)	大明石町2丁目3-1	共同住宅	463.00	310	令和6年4月1日 ～6月28日
2	太寺廃寺 第37地点 (TD37-2)	太寺1丁目67番	造成工事	1080.00	878	令和6年4月22日 ～6月12日
3	太寺廃寺 第38地点 (TD38-2)	太寺1丁目129番5	個人住宅	201.62	28	令和6年5月20日 ～5月25日
4	太寺廃寺 第39地点 (TD39-2)	太寺大野町2663番5	住宅	211.51	43	令和6年5月21日 ～5月31日
5	明石城武家屋敷跡 大明石町第47地点 (OA47-2)	大明石町1丁目5番22、5番23、 5番24	医療テナントビル	463.32	294	令和6年5月1日 ～6月30日
6	明石城武家屋敷跡 上ノ丸 第20地点 (UM23-2)	上ノ丸1丁目440-2	住宅	112.78	50	令和6年6月11日 ～6月19日
7	魚住古窯跡群 西島第16地点 (NJ16-2)	大久保町西嶋字向井392番2他	宅地造成	5824.94	348	令和6年7月22日 ～8月29日
8	明石城下宿場町跡 大蔵本町第9地点 (OKR9-2)	大蔵本町3712番1	個人住宅	105.85	29	令和6年7月23日 ～7月29日
9	宮ノ西遺跡 第3地点 (MN3-2)	大久保町西脇字宮ノ西615-1	宅地造成	426.94	62	令和6年7月25日 ～8月2日
10	前山遺跡 第2地点 (MA2-2)	二見町福里字前山370番4 外	宅地造成	1152.90	102	令和6年8月5日 ～8月30日
11	池ノ上遺跡第2地点 (IK II 1-3)	二見町東二見字池ノ上 645番1	事務所	543.95	10	令和6年8月20日 ～8月21日
12	明石城下町町屋敷跡 鍛冶屋町 第6地点 (KJ6-2)	鍛冶屋町24番1	個人住宅兼店舗	88.73	44	令和6年9月9日 ～9月20日
13	清水西遺跡 (SZW1-4)	魚住町清水字田代2048番1 他	スポーツ練習場建設	1587.01	115	令和6年10月8日 ～10月22日
14	御屋敷遺跡 第1地点 (OY1-2)	魚住町西岡字御屋敷 1680番の一部ほか29筆	宅地造成	9498.07	1904	令和6年10月22日 ～
15	明石城下宿場町跡 大蔵本町第10地点 (OKR10-2)	大蔵本町3712番7	個人住宅	125.59	28	令和6年11月7日 ～11月18日
16	清水西遺跡 第2地点 (SZW2-2)	魚住町清水字田代2043番12の 一部	宅地造成	1213.05	121	令和6年11月28日 ～12月13日
17	山圃遺跡 第1地点 (YH1-2)	二見町福里字山圃214番2、215 番1、217番3	宅地造成	2319.53	5	令和6年12月11日 ～12月12日
18	船上城跡 第22地点 (FN22-2)	田町1丁目2-2他	共同住宅・有料老人 ホーム	2666.50	1642	令和6年12月23日 ～
19	魚住清水遺跡 第4地点 (USZ4-2)	魚住町清水字往還西1322番1、 3、5	宅地造成	975.15	924	令和7年1月8日 ～
20	明石城武家屋敷跡 日富美町 第3地点 (HF3-2)	日富美町2-18	事務所建設	118.88	52	令和7年1月20日 ～1月29日
21	池之内遺跡 第1地点 (IKU1-2)	二見町福里字池之内68番1外	宅地造成	44.00	18	令和7年1月28日 ～
22	明石城下宿場町跡 大蔵町 第11地点 (OKR11-2)	大蔵町2351-1	集合住宅建設	147.38	102	令和7年2月13日 ～

(6)文化財関係展示について

・魚住文化財収蔵庫

第1回展示 2022年7月22日(金)～8月31日(水)

「明石西部の宝物」 来場者224名

高丘窯鴟尾、幣塚古墳埴輪、寺山古墳馬形埴輪、魚住古窯跡須恵器

第2回展示 2023年1月11日(水)～2月18日(土)

「清水の米づくりと祭礼」 来場者186名

唐箕、オクワハン衣装

第3回展示 2023年5月16日(火)～6月24日(土)

「明石の瓦」 来場者155名

林崎三本松窯瓦、報恩寺瓦、近・現代瓦、瓦造り道具

第4回展示 2023年7月20日(木)～9月2日(土)

「化石展」 来場者245名

アケボノゾウ、ナウマンゾウ、神戸層群植物化石、海外化石

第5回展示 2023年11月15日(水)～12月17日(日)

「昭和の道具－知恵と工夫－」 来場者68名

衣類、炊飯器、アイロン、ラジオ、テレビ

第6回展示 2024年2月15日(木)～3月24日(日)

「明石城下の武家のくらし」 来場者356名

調理具、暖房具、水道管、土人形、井戸

第7回展示 2024年5月18日(土)～6月30日(日)

「市指定文化財指定記念 赤根川金ヶ崎窯跡出土の須恵器」 来場者308名

寺山古墳石見型埴輪、赤根川金ヶ崎窯跡出土角杯形土器

第8回展示 2024年7月20日(土)～9月1日(日)

「蛸壺展」 来場者203名

飯蛸壺、真蛸壺、漁具、映像コーナー

第9回展示 2024年11月14日(木)～12月15日(日)

「埴輪展」 来場者210名

幣塚古墳出土埴輪、三番割古墳出土埴輪



全体風景
(埴輪展)



鐙付円筒埴輪
(埴輪展)



石見型埴輪、馬形埴輪
(埴輪展)

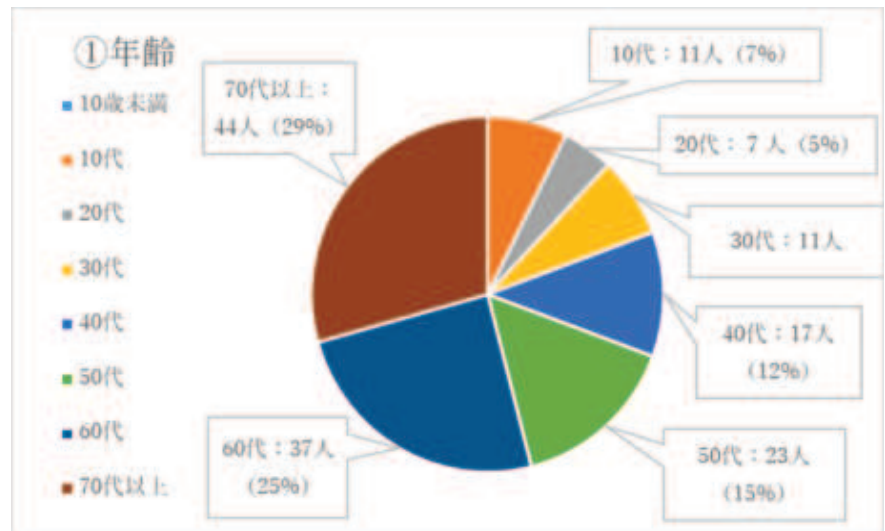
魚住文化財収蔵庫 第9回『埴輪展』アンケート（抜粋）

来場者数：210名

(2024. 11. 14～12. 15)

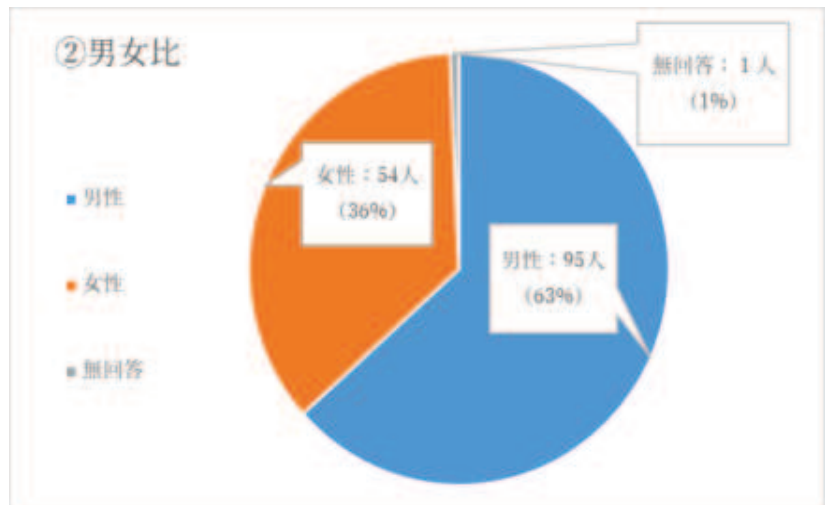
1. 年齢

	(人)
10歳未満	0
10代	11
20代	7
30代	11
40代	17
50代	23
60代	37
70代以上	44
(合計)	150



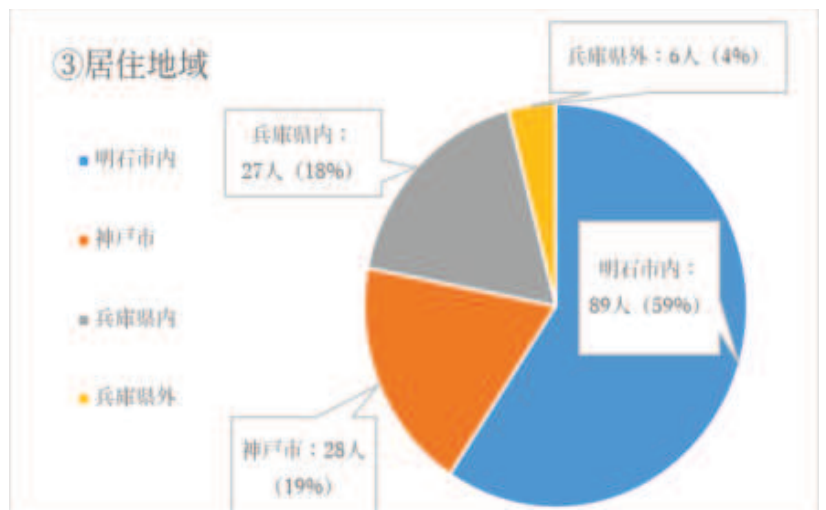
2. 性別

	(人)
男性	95
女性	54
無回答	1
(合計)	150



3. お住まいの地域

	(人)
明石市内	89
神戸市	28
兵庫県内	27
兵庫県外	6
無回答	0
(合計)	150



【兵庫県内】

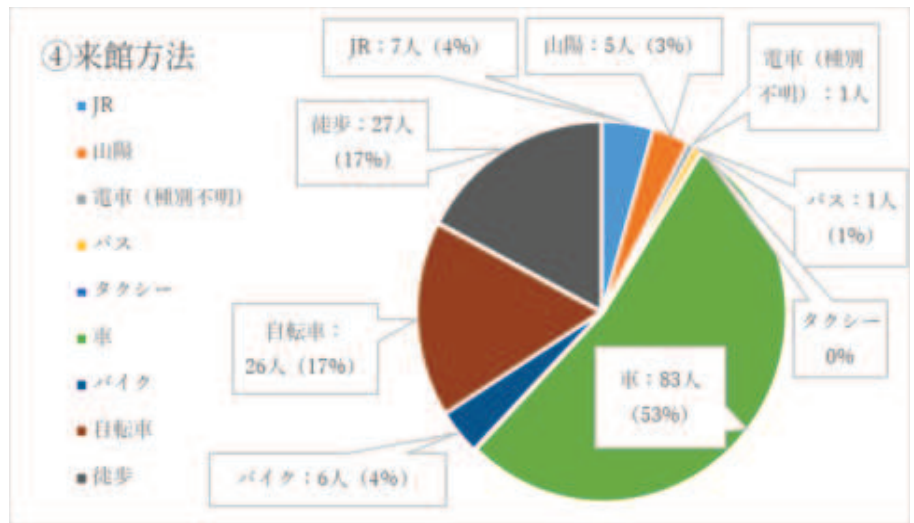
・播磨町 4、姫路市 1、加西市 1、加東市 1、
加古川市 8、稲美町 1、龍野市 2、三木市 3
福崎町 1、小野市 1、西宮市 2、川西市 1
芦屋市 2、淡路市 1

【兵庫県外】

・大阪府 2、奈良県 2、和歌山県 1、愛知県 1

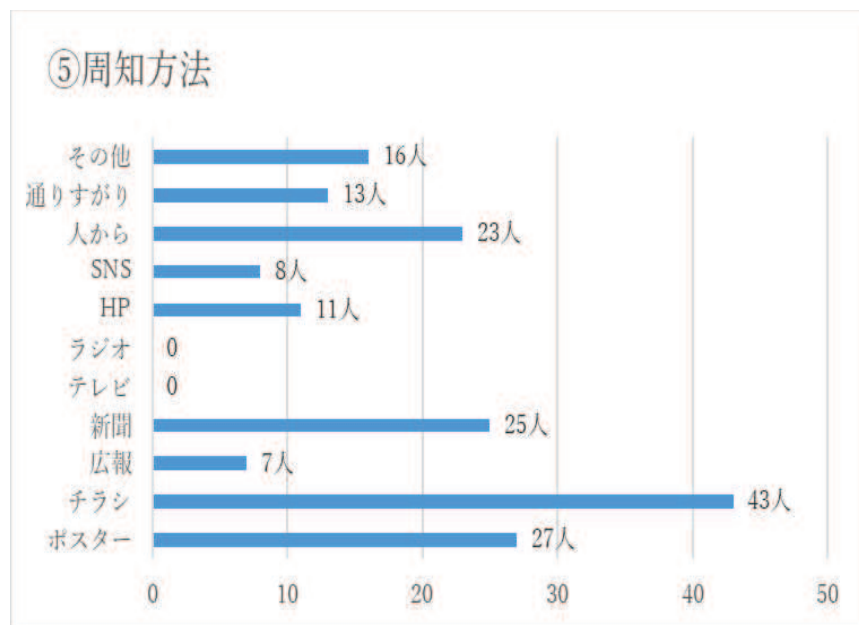
4. どうやって魚住文化財収蔵庫まで来られましたか？（複数回答可）

	(人)
電車(種別不明)	1
J R	7
山陽	5
バス	1
タクシー	0
車	83
バイク	6
自転車	26
徒歩	27
その他	0
無回答	0
(合計)	156



5. 今回の展示を、どのようにして知りましたか？（複数回答可）

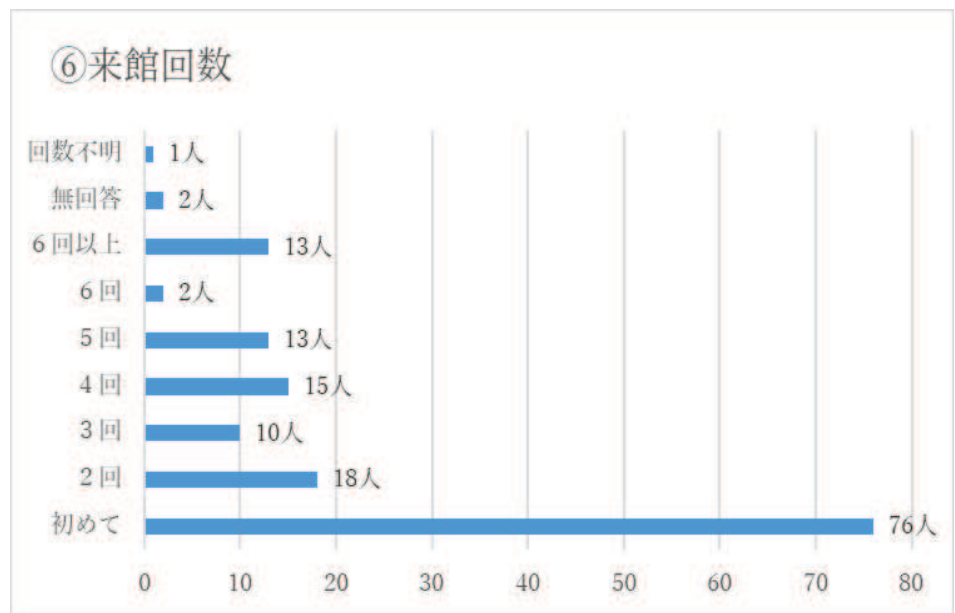
	(人)
ポスター	27
チラシ	43
広報	7
新聞	25
テレビ	0
ラジオ	0
ホームページ	11
SNS	8
人から聞いて	23
通りすがり	13
その他	16
無回答	0
(合計)	172



【「その他」内訳】 ・友人に聞いて ・横断幕を見て ・市民会館で聞いて
・近所なので ・インターンシップで ・トライやるウィークで 他

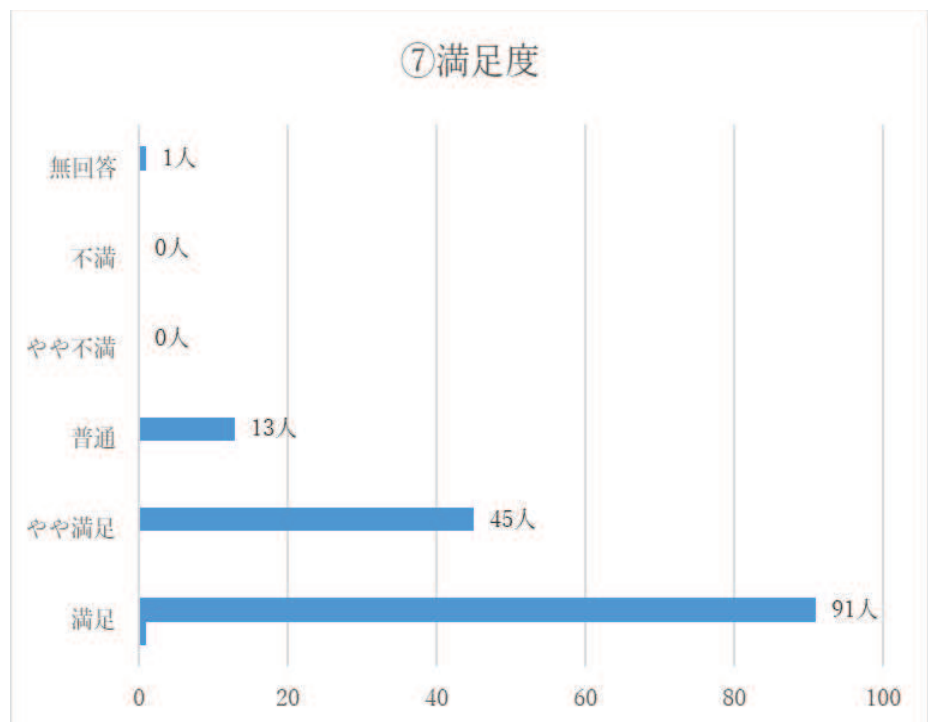
6. 当館へ来館されたのは、今回を含めて何回目ですか？

	(人)
初めて	76
2 回目	18
3 回目	10
4 回目	15
5 回目	13
6 回目	2
6 回目以上	13
無回答	2
回数不明	1
(合計)	150



7. 今回の展示について、満足できましたか？

	(人)
満足	91
やや満足	45
普通	13
やや不満	0
不満	0
無回答	1
(合計)	150



感想（抜粋）

- ・いつもこんなに見たりしないから見れて満足したし、ひつつけられたものも見れてよかった。（10代男性）
- ・はにわとはじきとの違いについて知ることができたからです。（10代男性）
- ・知らなかったことを専門の方から話をうけて、古墳について詳しくなれたから。意外と身近にあることが分かった。（10代男性）
- ・市内各所に点在する古墳の位置関係がわかりやすかった。（60代男性）
- ・幣塚古墳の一端がわかった。（60代男性）
- ・色々な種類のはにわのかけらや円筒を見れて、今まで知らなかったことをこの展示会で知りました。（10代女性）
- ・古墳や昔の歴史に興味があったので、久しぶりに展示を見れて、いい機会になった。（10代男性）
- ・時代毎・場所毎に展示されており、説明もわかりやすかった。（60代男性）
- ・明石からこんなにたくさんのはにわなどが出てきて、見ていて楽しかったから。（10代女性）
- ・明石市でこのような様々な埴輪が出土されていて驚いた。また明石に関係する様々な書物もあり、楽しかった。（50代女性）
- ・最近はやりの古代のものということもあって気にかかっていたのですが、このように型が残っているというのがすごいです。馬かわいいです。（40代女性）
- ・大好きな馬形埴輪を見れて大変満足しています。また展示して欲しいです。（40代女性）
- ・パネルなど、わかりやすかった。（60代男性）
- ・この地域の埴輪を見れたこと。（70代以上男性）
- ・市内のはにわをたくさん見ることができた。（60代男性）
- ・埴輪の勢揃い。幣塚古墳の全ぼう。（70代以上男性）
- ・本物を見るのが初めてで、実物の立派なのに感動した。住居の近くにたくさん（古墳が）所在し、横を何度も通っているのに知らなかったのもので、次からは立ち寄ってみたい。（70代以上男性）
- ・幣塚古墳の埴輪を見れたこと。（10代男性）
- ・今まで把握していなかった各種埴輪について明確な説明があったこと。（60代男性）
- ・普段通る幣塚古墳のハニワを五色塚のものと並べて見られることに満足。また、実際に触れることのできるハンズオン展示をハニワで体験でき、良かった。（20代男性）
- ・近くに、すばらしい「はにわ」があるとは思わなかった。（70代以上男性）
- ・幣塚古墳のはにわは五色塚古墳とよくにている（そっくり）でびっくり（大きい）。石見型も形がおもしろく、とってもよかった。（60代男性）

・発掘された明石の歴史展



会場入口
(発掘された明石の歴史展)



展示風景
(発掘された明石の歴史展)



報恩寺跡出土瓦
(発掘された明石の歴史展)

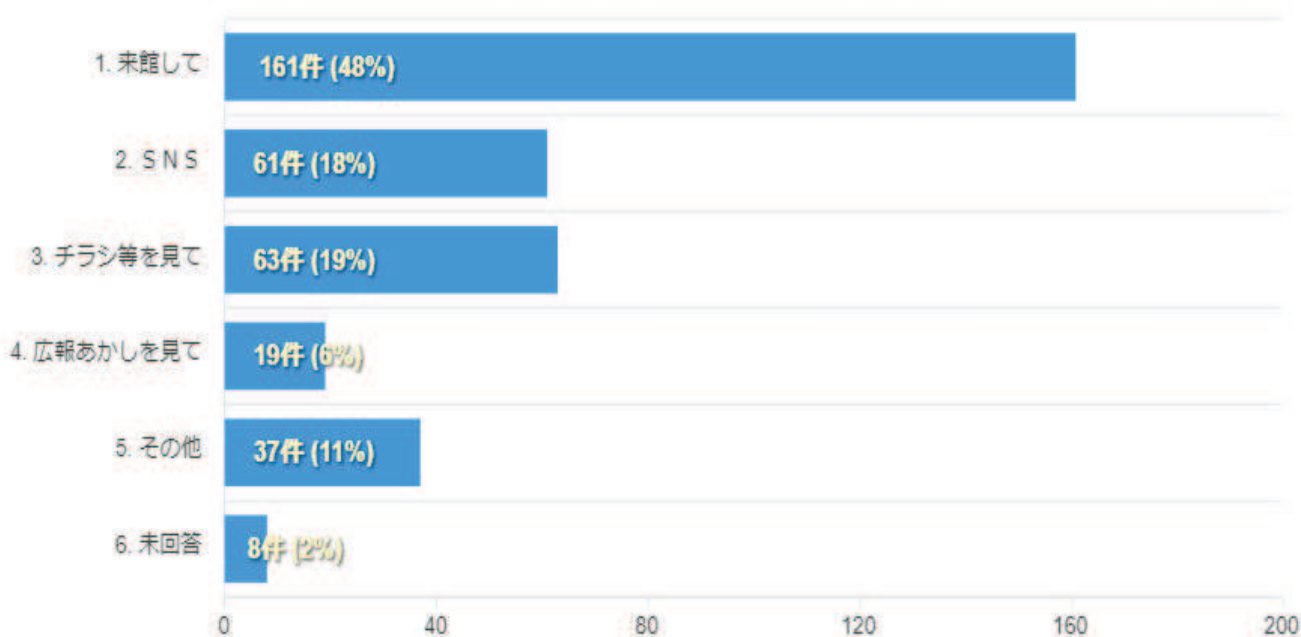


発掘された明石の歴史展「明石の寺院跡」 アンケート（抜粋）

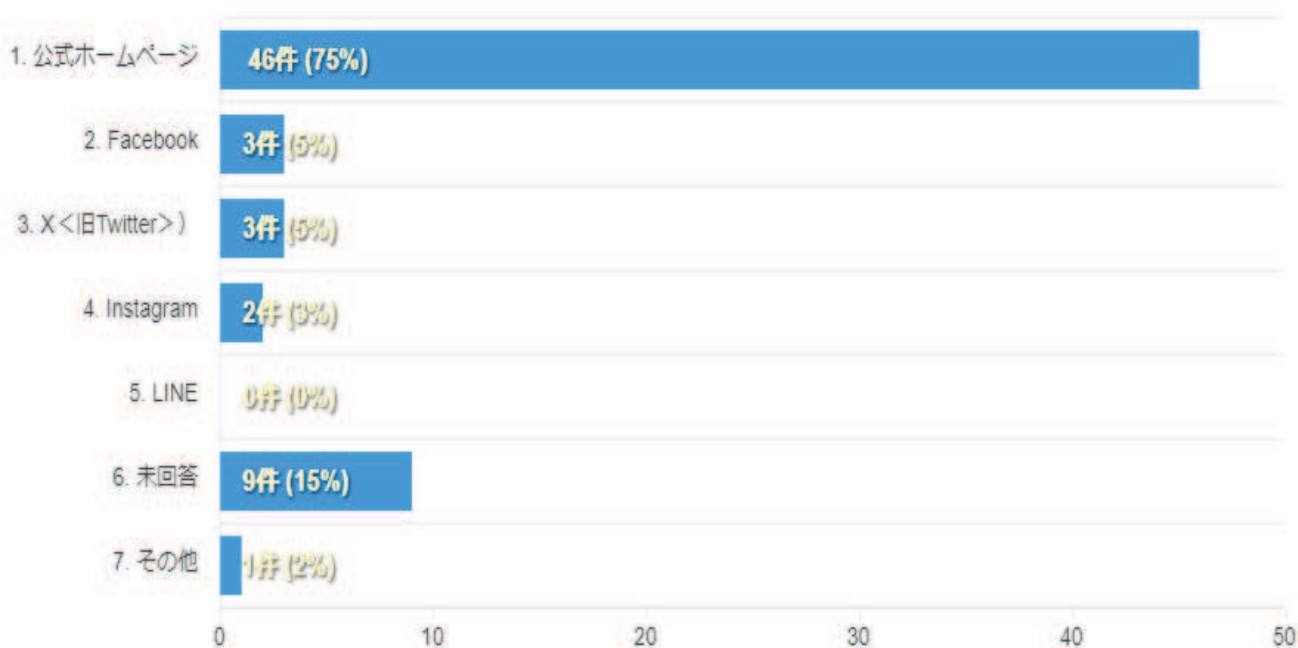
(2024. 10. 26～12. 01)

来場者数：2637 名

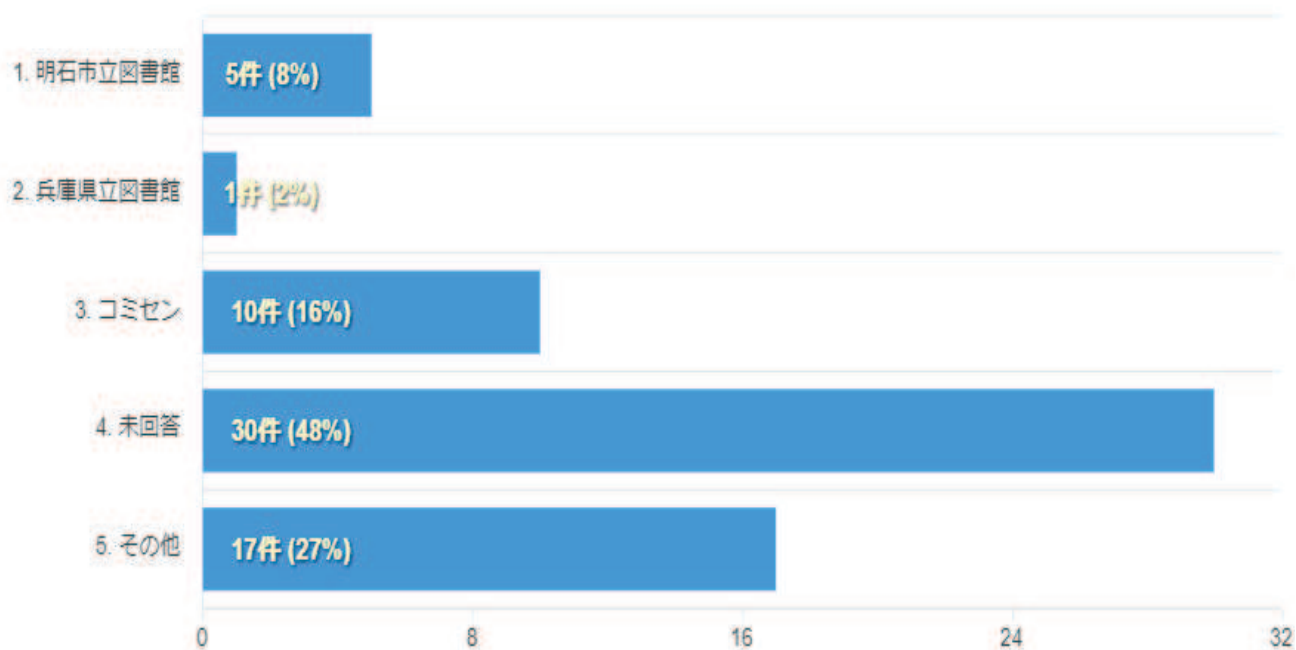
1－1. この展覧会を何で知りましたか。..



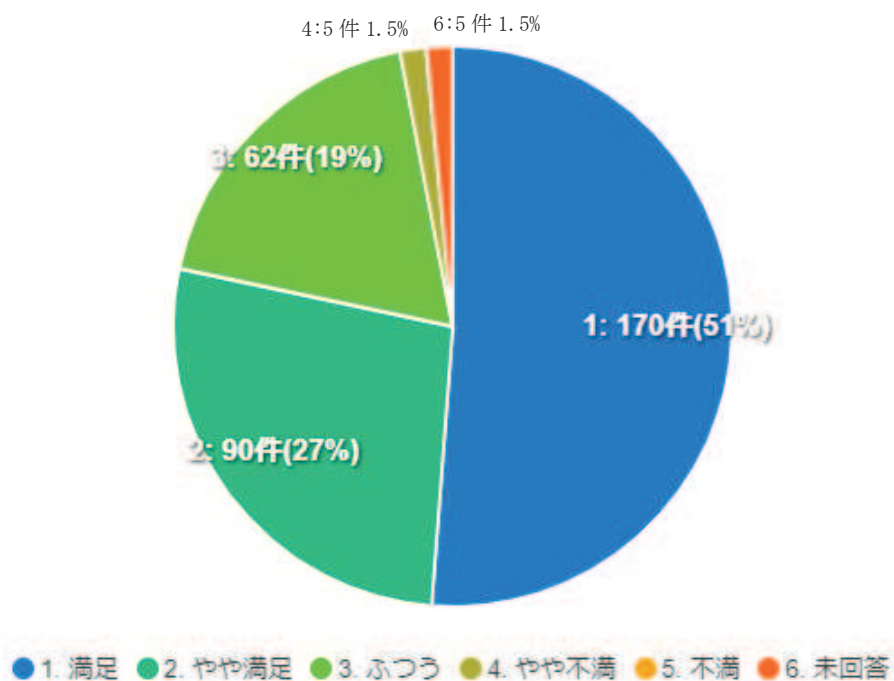
1－2. SNSは何ですか。..



1-3. チラシ等はどこで見ましたか。..



2-1. 今回の展覧会について満足度はいかがでしょうか。..



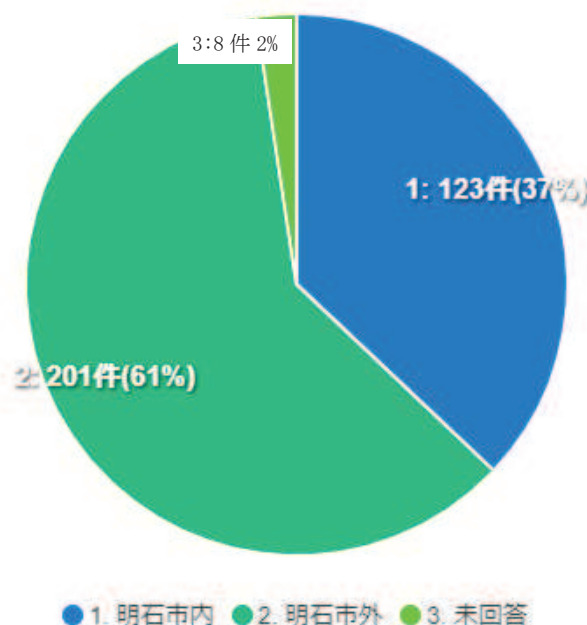
2-2. 上記満足度を選んだ理由や、感想、ご意見などをご記入ください。

- ・新しい？展示場だから写真が鮮明で見易かったです。(50代・男性)
- ・自分の住んでいる所でこんなに多くの出土品がでるなんてすごいことだなと思いました。(70代以上・女性)
- ・家の近く（高家寺）の歴史を知ることが出来た。(40代・女性)
- ・報恩寺の瓦？夢のような発掘です。頭高山の平瓦 報恩寺の梵鐘定盤(70代以上・男性)
- ・現在の景観の下の地中から、地域の歴史の展開が見えてくるのが印象的でした。また文献史料との照合もあって面白かった。(60代・男性)

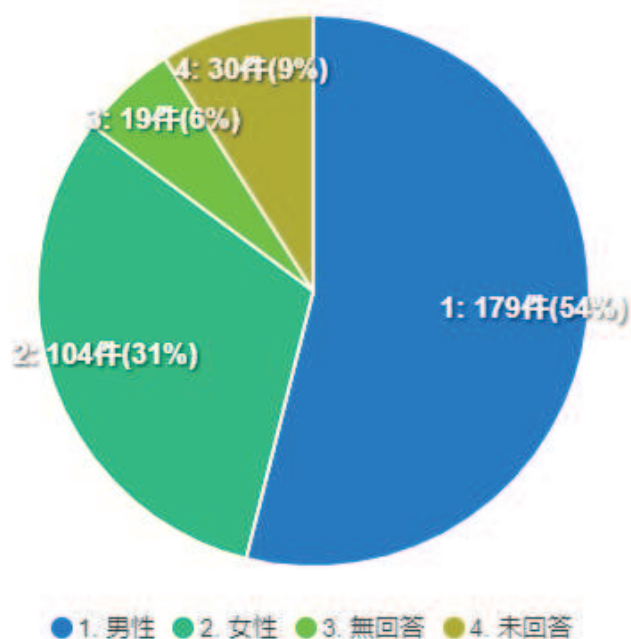
2-3. 今回の展覧会について一番印象に残ったことはどのようなことですか。

- ・頭高山の遺物が迫力があつたが、瓦の破片などから昔をいろいろ考えてみた。(70代以上・女性)
- ・龍の顔がはくりよくがあつた。(20代・女性)
- ・鬼瓦（阿形）と（吽形）が。(40代・男性)
- ・入口の大きなつぼの復元がすごかった。(70代以上・女性)
- ・報恩寺の遺物の大きさに驚きました。見応えがありました。来てよかったです。(60代・男性)
- ・太寺廃寺の金堂・中門・塔・講堂の塔跡を発掘調査をすること、明石神社周辺と駅家の場所を発見して下さい。(70代以上・男性)
- ・太寺廃寺の瓦の変遷。瓦が焼けて赤くなっている所。なぜ中世・近世など時代がわかるのか気になる。(20代・女性)
- ・太寺という場所が古くからの寺名にちなんだ歴史ある場所であることを確認した。(50代・男性)
- ・報恩寺の龍頭瓦、他の地域でもあまり見られない珍しい瓦というのが興味深いと感じた。(20代・男性)

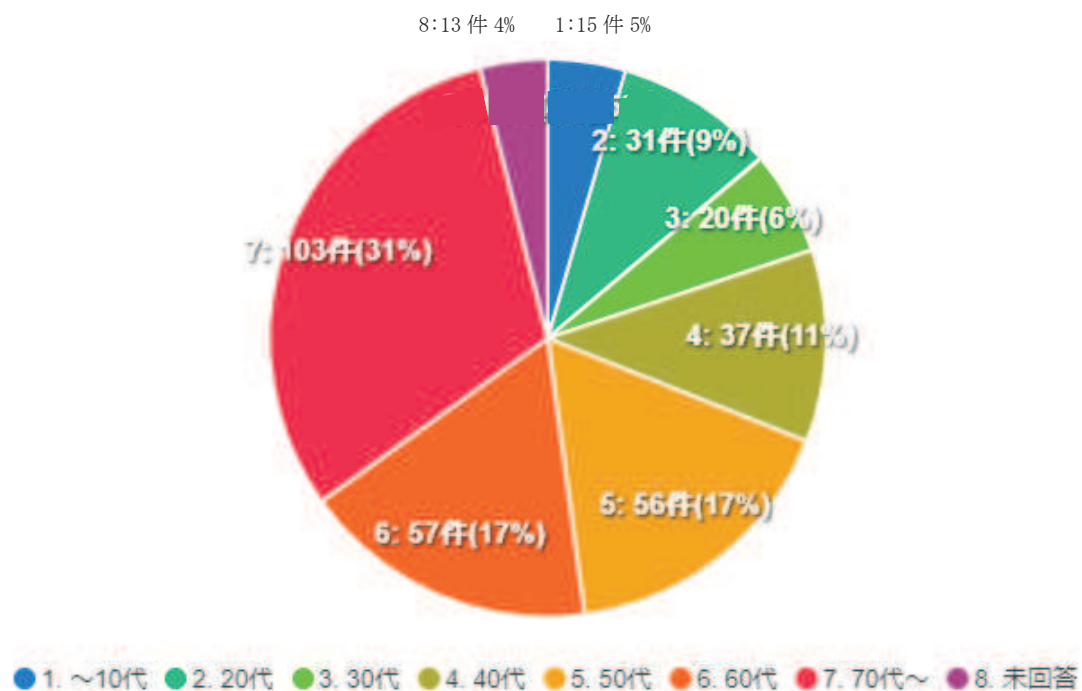
3-1. お客様のお住まいは。



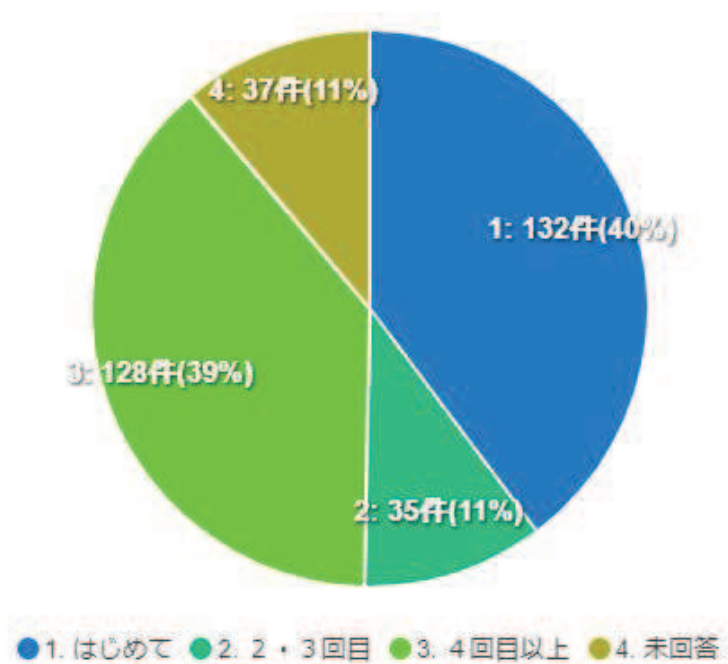
4. お客様の性別は。



5. お客様の年代は。



6. ご来館は何回目ですか。



・明石の布団太鼓Ⅱ



全体風景
(明石の布団太鼓Ⅱ)



岩屋神社布団太鼓保存会の水引幕
(明石の布団太鼓Ⅱ)



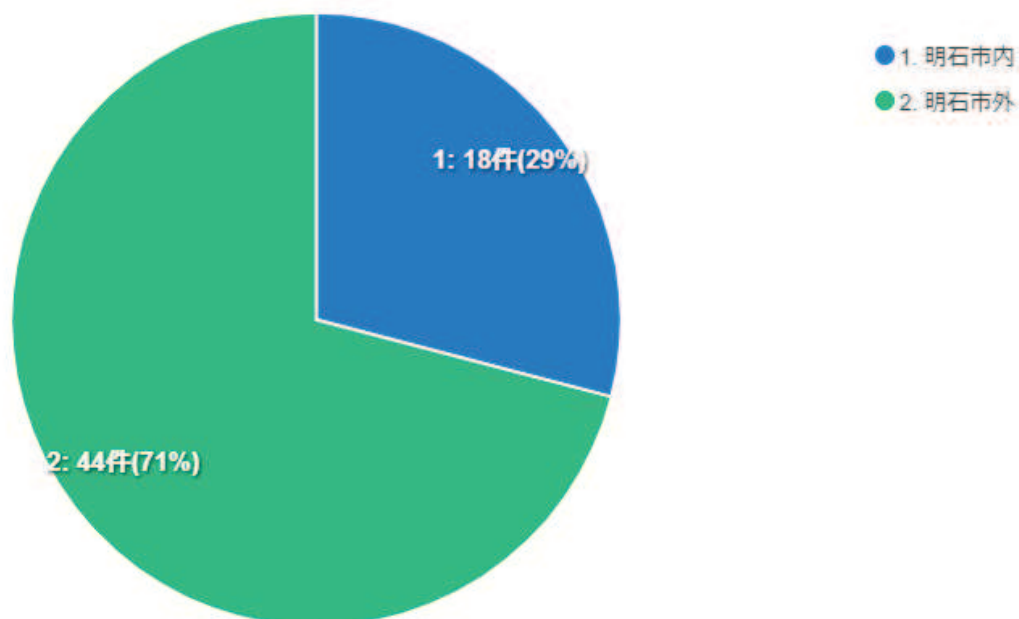
濱谷地区の高欄掛と古写真
(明石の布団太鼓Ⅱ)

企画展「明石の布団太鼓Ⅱ」 アンケート（抜粋）

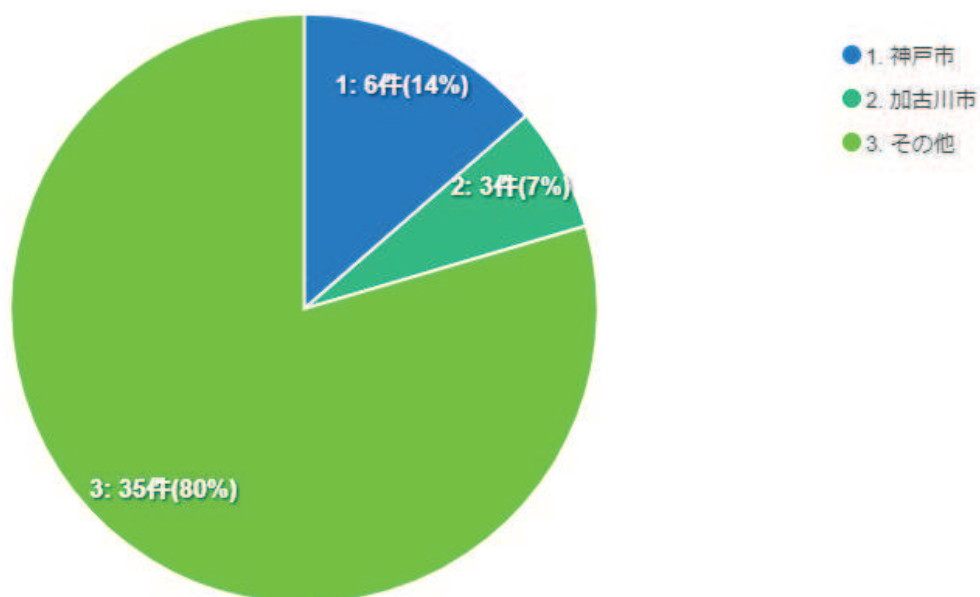
(2024. 12. 14～2025. 1. 13)

来場者数：2311 名

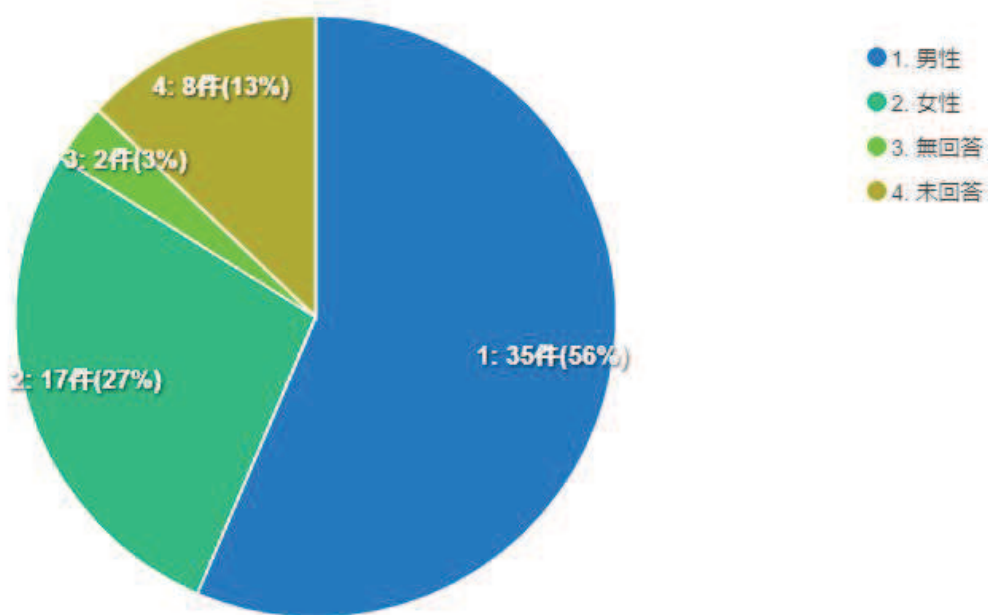
1－1. お客様のお住まいをお伺いします。



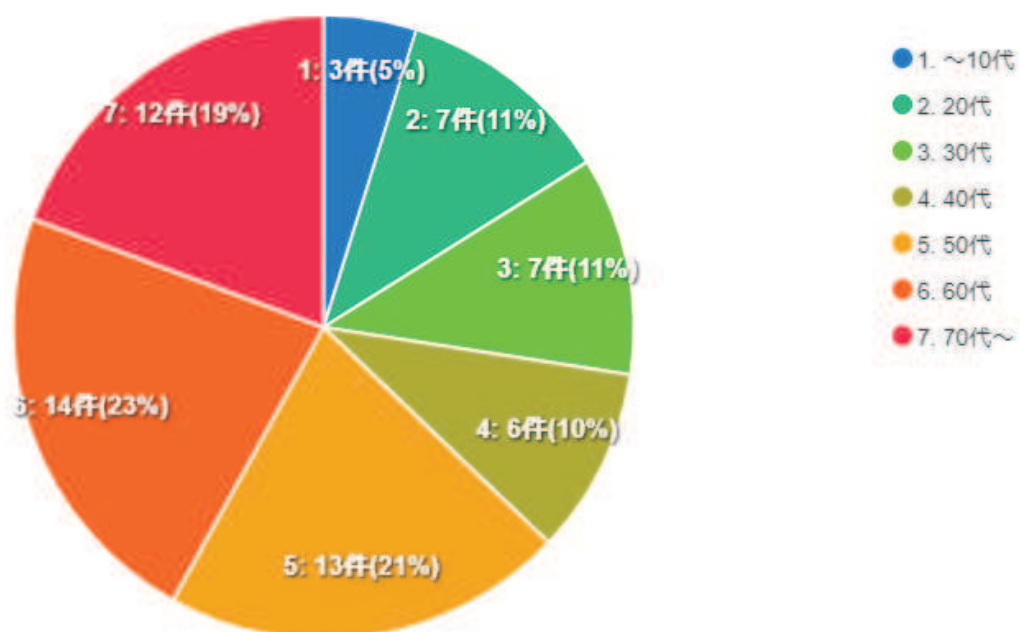
1－2. お客様のお住まいは明石市外のどちらですか。



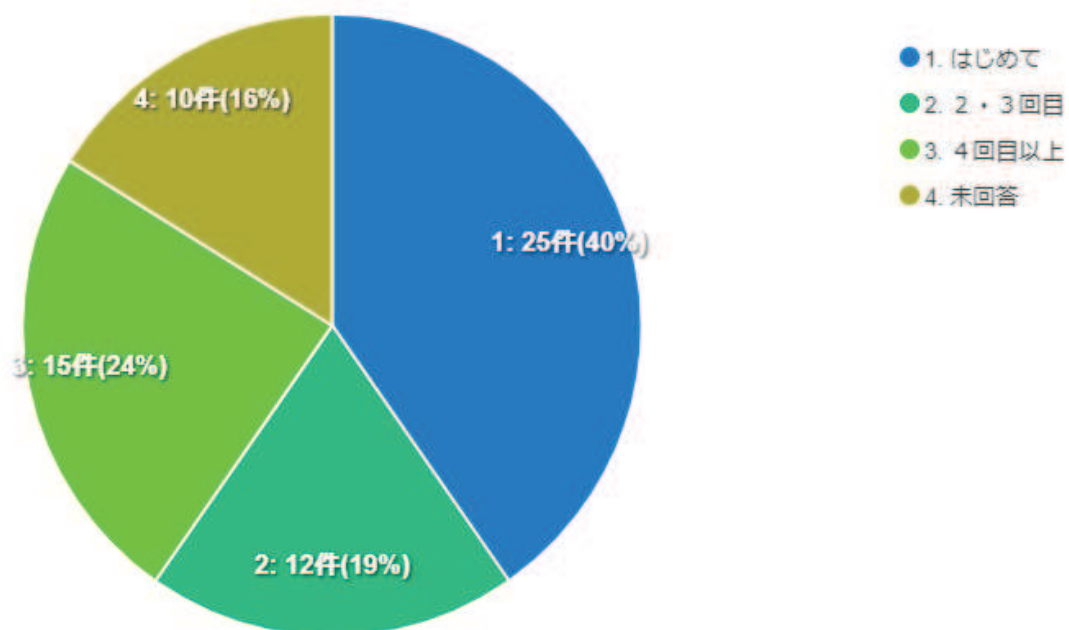
1－3. お客様の性別についてお伺います。



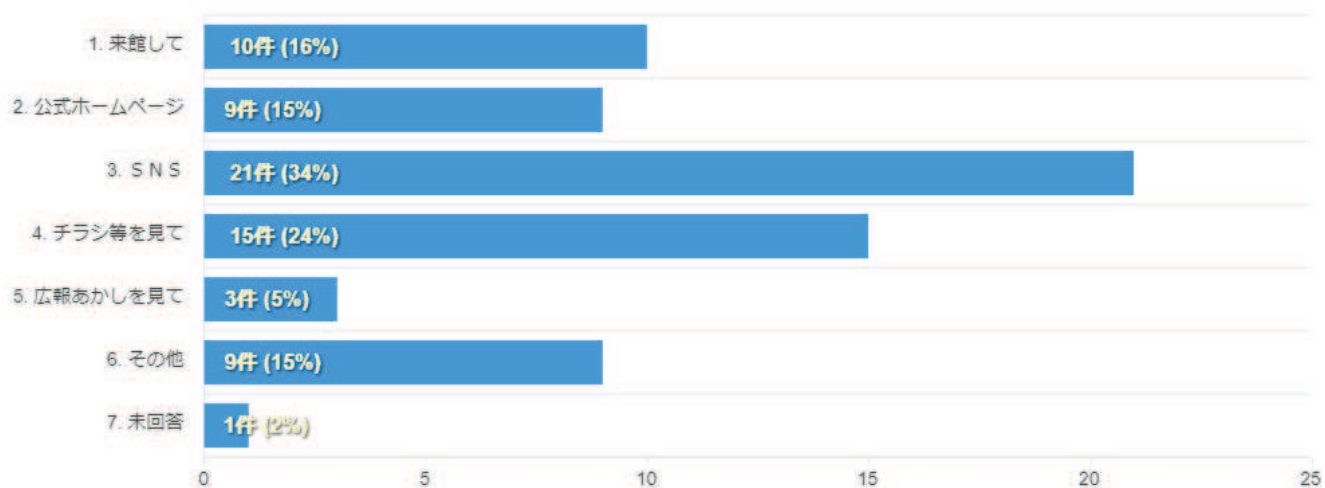
1－4. お客様の年代についてお伺います。



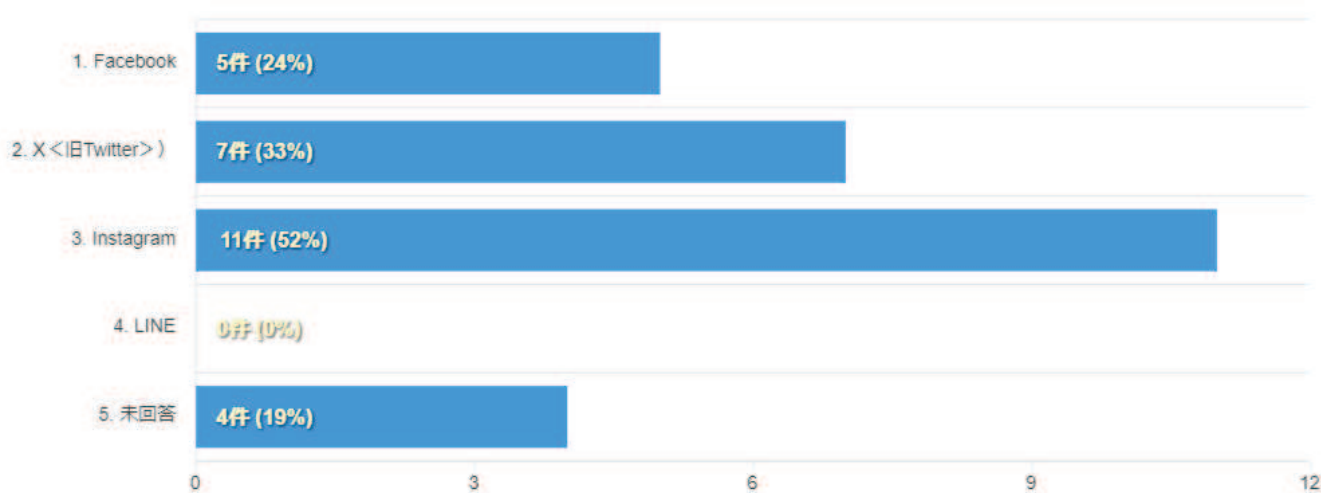
1-5. ご来館は何回目ですか。



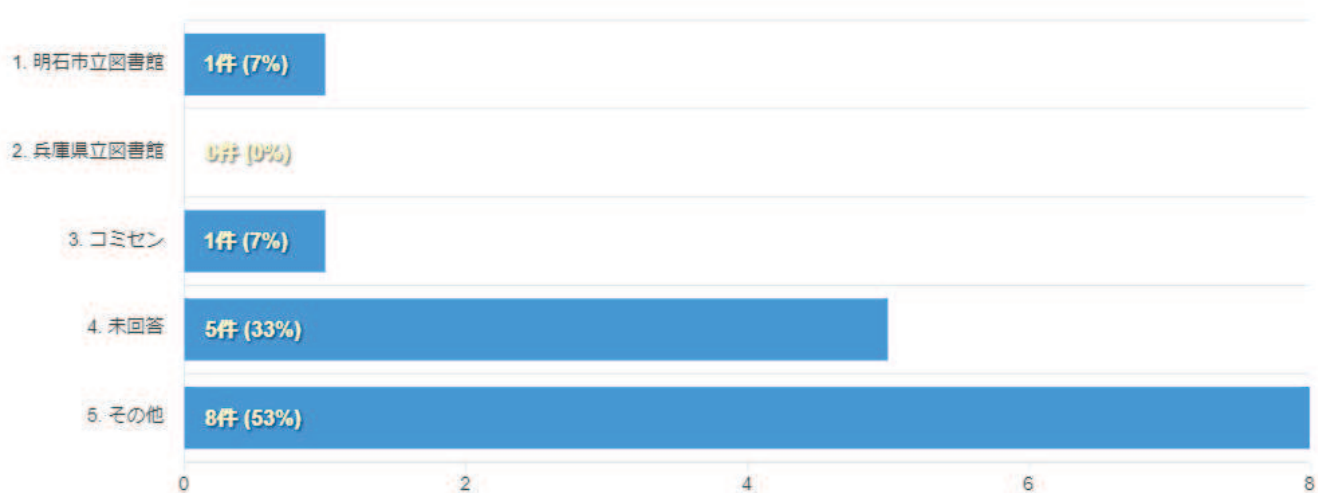
2-1. この展覧会を何で知りましたか。(複数選択できます)



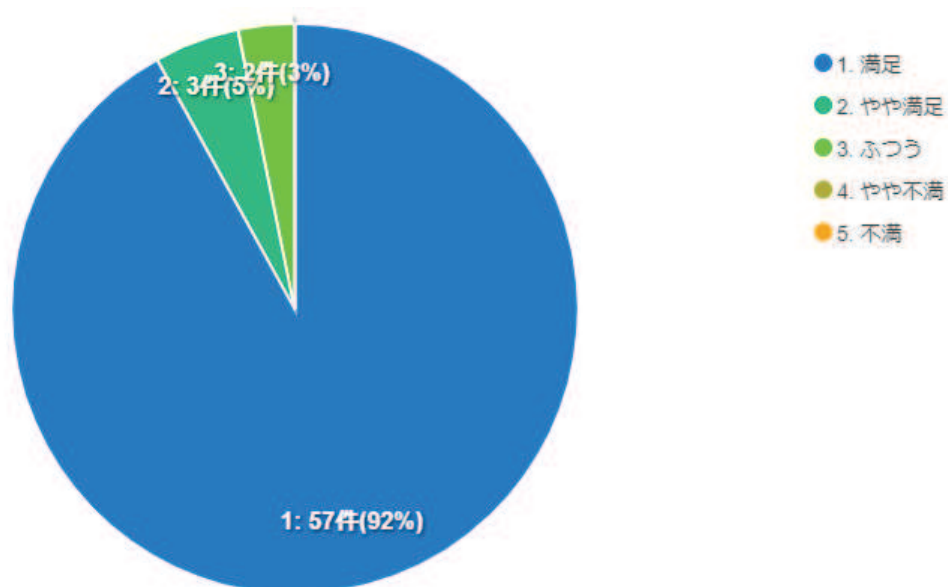
2-2. SNSはどちらのですか。(複数選択できます)



2-3. チラシ等はどちらで見ましたか。(複数選択できます)



3-1. 今回の展覧会について満足度はいかがでしょうか。



3-2. 上記満足度を選んだ理由や、感想、ご意見などをご記入ください。

- ・歴史に残る素晴らしい。よく展示してくれました。感謝。(70代以上・女性)
- ・布団太鼓プロジェクトの方が親切に対応してくれた。(20代・男性)
- ・お祭りが大好きです。(50代・男性)
- ・狭間が素晴らしかった。(20代・男性)
- ・普段なかなかみれないものが説明があることでよく分かりました。また北之町や岸の現在の装飾品もゆっくりみれてよかった。(20代・男性)
- ・絵が糸で作られていて感動した。(10代以下・男性)

3-3. 今回の展覧会について一番印象に残ったことはどのようなことですか。

- ・きめ細やかな作業に感動です。(60代)
- ・どれもこれも立派で歴史を感じるものばかりでした。ようこんなに保存できたなとも思いました。格天井の花木図、初めて知りました。(70代以上・女性)
- ・開さんの作品はやはり素晴らしい。(40代・男性)
- ・いろんな作品を保存されておられる個人の方や自治会の方に頭が下がります。受付のおじ様にとってもやさしく接していただきました。(70代以上・女性)
- ・展示物の名前は忘れてしまいましたが、花がたくさん描かれている展示物が綺麗で印象に残りました。(20代・無回答)
- ・開生民(珉)の作品がすごく良かった。(40代・女性)
- ・それぞれの装飾の立体感と細かさにとっても驚きました。(30代・女性)
- ・鳩が生きているよう。(30代)
- ・小松源蔵の彫り物。(60代・無回答)

(参考)

明文ス第 1209 号

2025 年(令和 7 年)2 月 17 日

明石市文化財保護審議会

会長 冷泉 為人 様

明石市長 丸谷 聡子



明石市指定有形文化財への指定について(諮問)

明石市文化財保護条例第 19 条第 1 号の規定により、下記のとおり諮問します。

記

- 1 諮問事項 明石市指定有形文化財への指定について
- 2 対象文化財 延命寺の仏像

(案)

2025年(令和7年)2月28日

明石市長 丸谷 聡子 様

明石市文化財保護審議会
会 長 冷 泉 為 人

明石市指定有形文化財への指定について(答申)

2025年2月17日付け明文ス第1209号で諮問のありました標記の件について、下記のとおり答申します。

記

諮問のあった明石市指定有形文化財の指定については、別記の内容で市指定とすることを妥当と認めます。

以上

記

名称 延命寺の仏像

時代 平安時代前期（9世紀）

評価 延命寺は奈良時代の創建と伝わる寺院である。長坂寺（現在の遍照寺）の塔頭寺院として建立された。もとは、現在の魚住町錦が丘にあり、南北朝の戦乱で長坂寺とともに焼失し、絵馬堂のあった現在の場所に再建された。その後、天正7年（1579）の羽柴秀吉の三木城攻めで別所方に味方したため再び焼かれ、現在の場所に再建された。

この延命寺の仏像は地藏菩薩の坐像である。地藏菩薩は、釈迦の入滅後、弥勒菩薩があらわれるまでの間、衆生を救うとされた。構造は丸太の一材を縦半分に割り、木心を像の前にして彫刻している。干割れを防ぐために像内を彫る内刳はされていない。像高は75.7cmで右肘を曲げて錫杖を持ち、左肘も曲げて掌の上に宝珠を載せる。左足を上にして結跏趺坐し、左足先は衣で覆われている。面相は、精気に富み迫力がある。体部は胸部が盛り上がるように厚く造られ、衣文の彫りは深く、太い衣の間に先の鋭い衣を彫りだす翻波式衣文がみられる。これらの特徴や作風から本像は平安時代前期に造立された市内最古のものと評価される。持物や腰回りなど後補と考えられる部分もあるが、全体に当初の姿をよく留め、保存状態も良好である。

延命寺・地藏菩薩所見

明石市文化財保護審議会 副会長 木村重圭

現在の延命寺は浄土宗であるが、寺伝によれば、奈良時代に行基によって創建された長坂寺の塔頭であったと伝えられる。度々の兵火にあい、現在地に移されたという。柳井という小さな集落（50戸余りか）の寺である。

その延命寺の本尊が、当地蔵菩薩坐像である。張りのある重厚な体躯で表現され、いかにも貞観仏（平安時代前期・9世紀）という印象を強く与える。

尚、修理や後補については、神戸佳文氏の所見を参照していただきたい。二度の兵火と1300年近い星霜を耐えて今日に伝えられたのであるから、本像における修理や後補は当然の結果であり、何ら問題にする必要はない。

重厚で張りのある顔は森厳であり、肩や胸部の肉付きもがっしりとしていて、内からの強い力が感じられる。衣の襷は翻波式で非常にシャープな彫を見せている。翻波式とは衣の襷を大波と小波を交互に繰り返す彫り方で、平安時代前期にのみ用いられた彫法である。衣の彫法といい、像全体の重厚な表現といい正しく貞観仏の典型と言えよう。

国の重要文化財に指定されている地藏菩薩像は70点余りあり（国宝1点を含む）、その内坐像は12点で平安前期の作は数点くらいと見られる。平安前期まで遡る作例は極めて少ないようで、奈良時代の作は見当たらない。加えて兵庫県内では、地藏菩薩像以外を含めても4例しか見当たらない。その意味でも大変貴重な作例と言える。返って今まで全く知られなかったことが不思議でならない。

このような仏像の出現を喜ぶとともに、是非明石市の文化財に指定を望むものである。

・衝濤館の古写真



衝濤館全景(明石市所蔵)



衝濤館全景(明石市所蔵)

(5)2024年度埋蔵文化財発掘調査事業について

No.	遺跡名	所在地	事業名	開発面積 (㎡)	調査面積 (㎡)	調査期間
1	明石城武家屋敷跡 大明石町 第46地点	大明石町2丁目3-1	共同住宅	463.00	310	令和6年4月1日 ～6月28日
2	太寺廃寺 第37地点	太寺1丁目67番	造成工事	1080.00	878	令和6年4月22日 ～6月12日
3	太寺廃寺 第38地点	太寺1丁目129番5	個人住宅	201.62	28	令和6年5月20日 ～5月25日
4	太寺廃寺 第39地点	太寺大野町2663番5	住宅	211.51	43	令和6年5月21日 ～5月31日
5	明石城武家屋敷跡 大明石町第47地点	大明石町1丁目5番22、5番23、 5番24	医療テナントビル	463.32	294	令和6年5月1日 ～6月30日
6	明石城武家屋敷跡 上ノ丸 第20地点	上ノ丸1丁目440-2	住宅	112.78	50	令和6年6月11日 ～6月19日
7	魚住古窯跡群 西島第16地点	大久保町西嶋字向井392番2他	宅地造成	5824.94	348	令和6年7月22日 ～8月29日
8	明石城下宿場町跡 大蔵本町第9地点	大蔵本町3712番1	個人住宅	105.85	29	令和6年7月23日 ～7月29日
9	宮ノ西遺跡 第3地点	大久保町西脇字宮ノ西615-1	宅地造成	426.94	62	令和6年7月25日 ～8月2日
10	前山遺跡 第2地点	二見町福里字前山370番4 外	宅地造成	1152.90	102	令和6年8月5日 ～8月30日
11	池ノ上遺跡第2地点	二見町東二見字池ノ上 645番1	事務所	543.95	10	令和6年8月20日 ～8月21日
12	明石城下町町屋敷跡 鍛冶屋町 第6地点	鍛冶屋町24番1	個人住宅兼店舗	88.73	44	令和6年9月9日 ～9月20日
13	清水西遺跡	魚住町清水字田代2048番1 他	スポーツ練習場建設	1587.01	115	令和6年10月8日 ～10月22日
14	御屋敷遺跡 第1地点	魚住町西岡字御屋敷 1680番の一部ほか29筆	宅地造成	9498.07	1904	令和6年10月22日 ～
15	明石城下宿場町跡 大蔵本町第10地点	大蔵本町3712番7	個人住宅	125.59	28	令和6年11月7日 ～11月18日
16	清水西遺跡 第2地点	魚住町清水字田代2043番12の 一部	宅地造成	1213.05	121	令和6年11月28日 ～12月13日
17	山圃遺跡 第1地点	二見町福里字山圃214番2、215 番1、217番3	宅地造成	2319.53	5	令和6年12月11日 ～12月12日
18	船上城跡 第22地点	田町1丁目2-2他	共同住宅・有料老人 ホーム	2666.50	1642	令和6年12月23日 ～
19	魚住清水遺跡 第4地点	魚住町清水字往還西1322番1、 3、5	宅地造成	975.15	924	令和7年1月8日 ～
20	明石城武家屋敷跡 日富美町 第3地点	日富美町2-18	事務所建設	118.88	52	令和7年1月20日 ～1月29日
21	池之内遺跡 第1地点	二見町福里字池之内68番1外	宅地造成	44.00	18	令和7年1月28日 ～
22	明石城下宿場町跡 大蔵町 第11地点	大蔵町2351-1	集合住宅建設	147.38	102	令和7年2月13日 ～



2024 年度発掘 調査位置図

1 明石城武家屋敷跡 大明石町第 46 地点

- | | |
|---------|-------------------------|
| 1 所在地 | 明石市大明石町二丁目 3-1 |
| 2 開発事業名 | 共同住宅建設工事 |
| 3 事業者名 | 株式会社 長谷工不動産 |
| 4 調査主体 | 明石市 |
| 5 調査担当者 | 稲原 昭嘉 ・ 谷川真基 |
| 6 調査の種別 | 発掘調査 |
| 7 調査期間 | 令和 6 年 4 月 8 日～6 月 20 日 |
| 8 調査面積 | 約 310 m ² |
| 9 調査の結果 | |

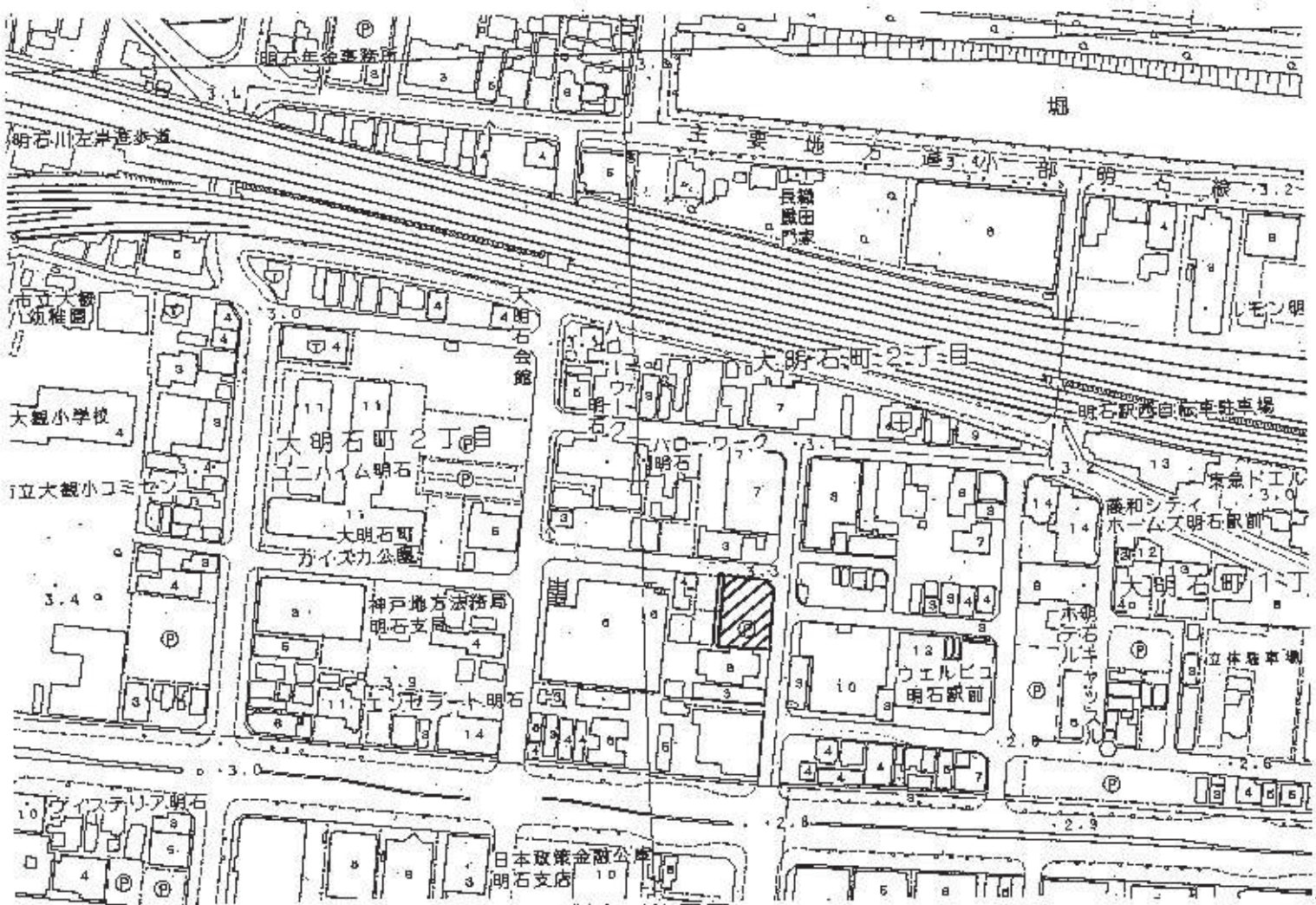
調査地は、標高 3.5m で江戸時代に描かれた絵図と現在の地図を照合すると、外堀の内側の上級武士の屋敷地にあたる。

調査区の北側では、東西方向に 7 基の柱穴が並んで検出された (SK3030、3028、3068、3100、3082、3102)。これらの柱穴は直径 90cm から 140cm で隅丸方形あるいは隅丸長方形を呈し、深さは、60～90cm、底部に 40cm 程度の礎石を敷いており、礎石の上に木材が置かれているものも見られた。柱穴間は 1～1.2m である。南北方向の並びは、SK3100 の北に礎石をもつ SK4040 が確認されているだけで他に対応する柱穴は見つかっていない。西端の SK3082 と SK3102 の間は 2m 以上の間隔であることから。ここで建物が分かれ、東西に 2 基の建物が並立していたと考えられる。このような柱穴は馬を繋ぐための柱を立てるため深く掘り込まれたものと考えられ、調査地から約 400m 北の鷹匠町で平成 14 年度に調査された地点でも確認されており、馬小屋跡と推定されている。

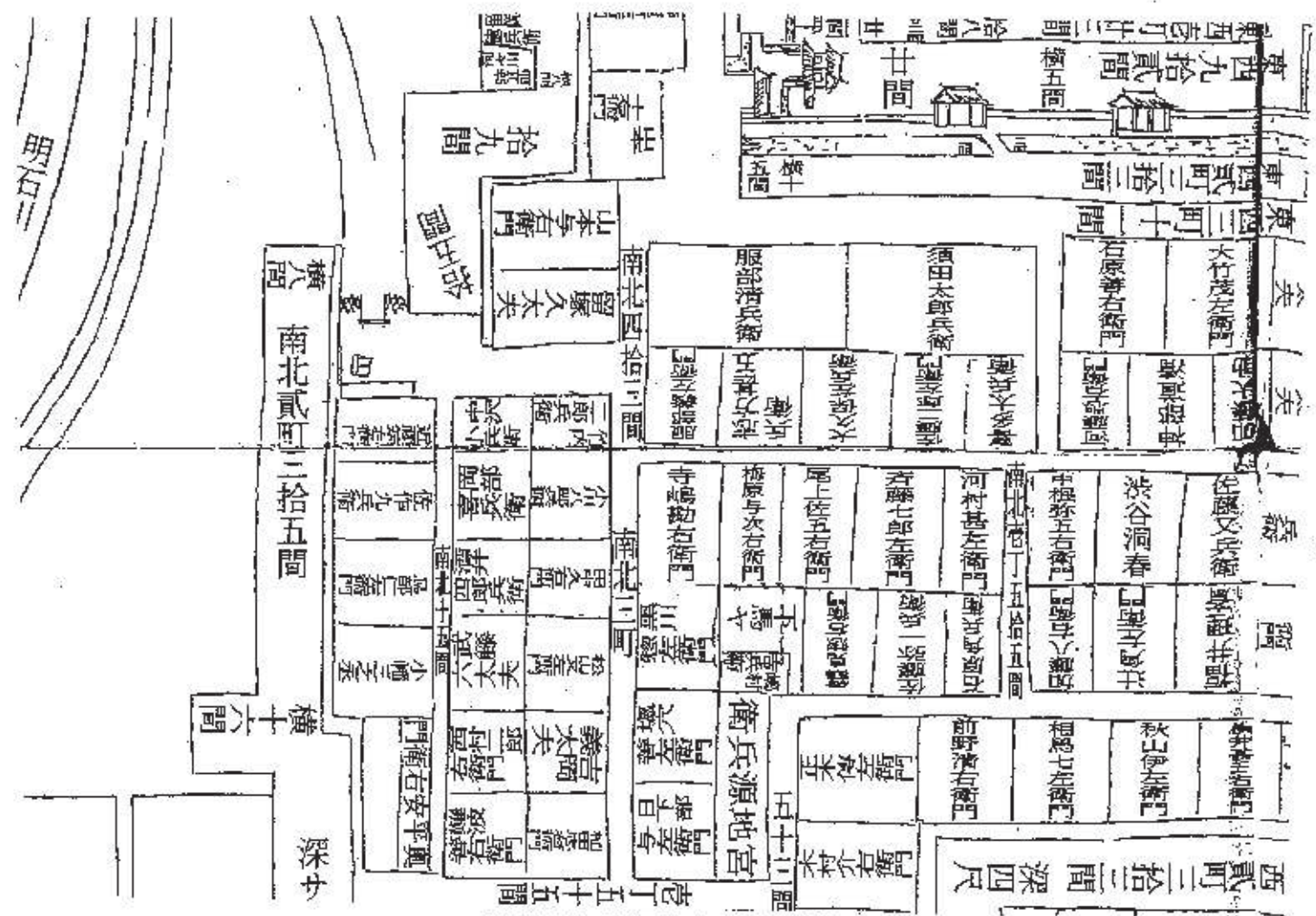
大久保期 (1639～1649) のものとみられる『明石城郭之図』によると、調査地は「下御馬屋」とされている区画に一部に当たることから、見つかった柱穴列は馬小屋の馬繋ぎの柱を立てた跡であった可能性が高いと考えられる。

調査区西側で確認された溝 (SD2260) は、幅 80～150cm、深さ 20～30cm で、調査区西端を南北に走り、両端は調査区外に延びていた。享保年間 (1716～1736) 以降に描かれた絵図では、古い時期とは屋敷割が変わっており、調査区西側に屋敷境が見られる。このことから、この溝は屋敷地を区切る区画溝と考えられる。埋土からは江戸時代末から明治時代にかけての陶磁器や瓦などが多く出土しており、武家屋敷の廃絶後それほど時間を経ずに埋められたものと考えられる。この溝に沿うようにいくつかの土坑が確認されている。調査区西南部で見つかった土坑は、東西 3m 以上、南北 6.8m の不定形をし、内部に砂が堆積していた。下部は泥質土となっていたことから池状遺構と判断される。先の馬の洗い場であった可能性がある。また、この土坑の南には南北約 2.2m、東西約 1.4m の長方形をした土坑が見つまっている。南側には階段状の段差があることから、穴蔵であると考えられる。土坑の形態や出土遺物から江戸時代の初め頃の遺構と考えられる。

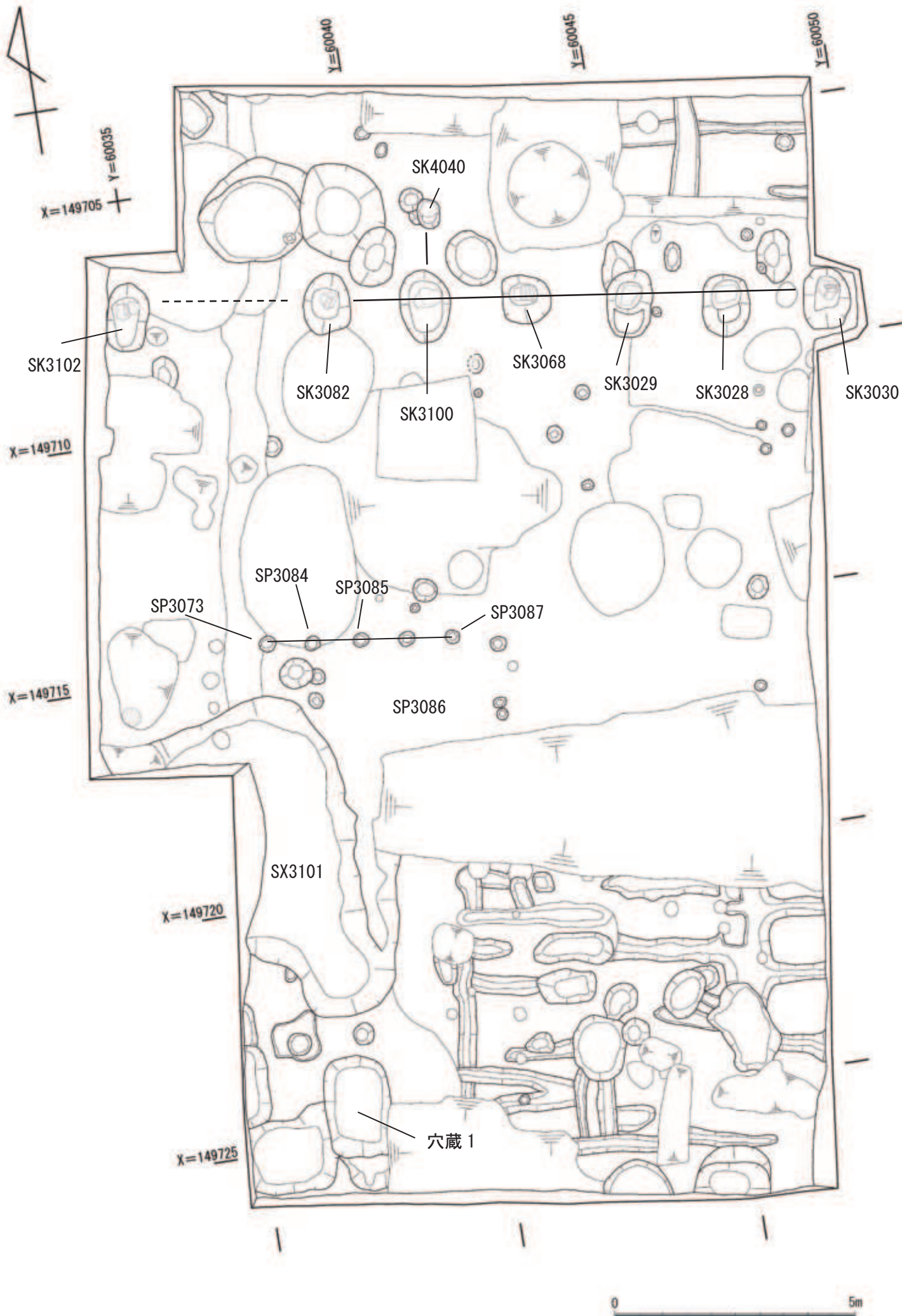
以上のように、馬屋跡や屋敷の区画を示す溝が見つかったことで、絵図の記載を裏付けることができた意義は大きい。



明石市街図



「明石市街図」(大久保時代)



OA46-2 第2面 遺構平面図 (S=1/100)



II区 柱穴列（西から）
（SK3068・3029・3028）



II区 SK3068
礎石出土状況（北から）



III区 柱穴列（西から）
（SP3073・3084～3087）

16 清水西遺跡 第2地点 発掘調査実績報告

- 1 所在地 明石市魚住町清水字田代 2043 番 12 の一部
- 2 開発事業名 宅地造成工事
- 3 事業者名 ヴェル・ハウジング株式会社
- 4 調査主体 明石市
- 5 調査担当者 稲原 昭嘉 ・ 谷川 真基
- 6 調査の種別 発掘調査
- 7 調査期間 令和6年11月28日～ 12月13日
- 8 調査面積 約 121 m²
- 9 調査概要

今回の調査では、柱穴、掘立柱建物跡、土坑、溝などが確認された。

掘立柱建物跡は調査区の西側で確認されており、東西方向に3間、南北方向に2間が検出され、西側あるいは、南側に延びるものと考えられる。柱穴の深さは40～50cm、柱間の距離は東西で約3m、南北で約2.2mを測り、主軸はN-63°・Wである。埋土内からは炭や焼土とともに瓦なども多く出土しており、柱を抜き取って埋めたものとみられる。出土した遺物はほとんどが柱の抜き取り痕跡中からの出土である。

調査区中央では南北方向に延びる溝が検出された（SD01）。幅130～200cm、深さは北側で約10cm、南側で約25cmを測り、南北は調査区外に延びている。主軸方位はN-30°・Eである。埋土に大量の瓦や土師器とともに焼土や炭なども含まれていたが、土層の断面観察から、焼土や炭などが埋まったのち、その上に瓦や土師器などが大量に堆積したと考えられる。瓦や土師器には赤変し二次焼成を受けた痕跡がみられるものも多く、火災などによって周辺の建物が焼けた後、事後処理としてその廃材を溝に埋めた可能性が考えられる。この溝や掘立柱建物跡は、古代山陽道を意識して計画的に配置されたものと考えられる。

出土した遺物の種類は、土師器（皿、托皿、碗）、須恵器（碗、甕）、瓦（平瓦、丸瓦）などで、8～11世紀ごろの時期に位置づけられる。土器類では土師器皿や托皿、碗などが出土量の大半を占めており、須恵器の出土量は少ない。これらの遺物は10～11世紀に位置づけられ、ほとんどはSD01で出土している。掘立柱建物跡を構成する柱穴から出土した遺物もSD01と共通しており、これらの出土した土器類の11世紀という年代は、この集落の廃絶の時期を示すものと考えられる。一方で、瓦については、播磨国府系瓦が出土しており、8～9世紀にかけて播磨の官衙で主に葺かれていることから、集落の成立時期に近い年代を示している可能性が考えられる。

今回の調査で出土した遺物は30m東側の清水西遺跡第1地点を調査した際に出土した遺物とほぼ同様であることから、これら二つの調査地は同じ集落を構成しているものと考えられる。集落は古代山陽道に隣接しており、また、賀古郡と明石郡の境界に近い場所に立地していることから、駅家などの公的機関に関連する集落である可能性が高い。また、駅家ではある時期に掘立柱建物から瓦葺き建物に変化しており、その際に山陽道に平行する主軸から方位に則した主軸へと変わり、駅戸集落では瓦葺き建物への変化の際に駅家とは逆に、方位に則した主軸から山陽道に平行する主軸へと変化することが分かっている。今後、このような研究成果を踏まえて、この集落の性格や変遷について検討するにあたっての貴重な資料が得られた。





完掘状況（西から）



溝（SD01）
遺物出土状況（北から）



掘立柱建物跡
（北東から）

『源氏物語』と明石

『源氏物語』は、平安時代の11世紀初め頃、紫式部によって書かれた全54帖からなる長編の物語。そのうち「明石」は第13帖。

都を離れて須磨で隠棲していた光源氏が明石へ移り、前の播磨守であった明石入道の屋敷「浜の館」に迎え入れられる。そこで、入道の娘明石の上との仲を取り持たれ、明石の上の住む「岡の館」へと通う。翌年、光源氏は都へ呼び戻されることにな

り、懐妊していた明石の上には都へ迎えることを約束し、明石を後にする。

源氏物語の中では明石の様子が細かく描写されていて、読み手を明石へと誘う。文学に関心が強かった明石藩主松平忠国は自らの領国である現実の明石の地に『源氏物語』の世界を当てはめ、領内に物語を広めるとともに、往来する人たちに文学遺跡を通して明石の地を広く知らしめた。

明石藩主松平忠国(藤井松平家)

藤井松平家の忠国は慶安2年(1649)丹波国篠山藩5万石から7万石の第5代明石藩主として入部し、万治2年(1659)に亡くなる。次男(長男は若くして死去)信之が跡を継ぎ、第6代明石藩主となる。延宝7年(1679)大和郡山藩8万石へ移る。

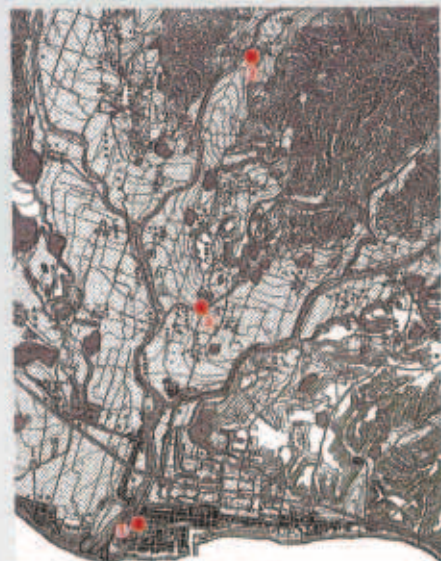
松平忠国が『源氏物語』を現実の地に見立てた文学遺跡は次の2か所。

- ・明石入道の屋敷で光源氏が住んだ「浜の館」(①)を善楽寺や無量光寺の周辺に想定した。(前ページ)
- ・明石の上の住まいである「岡の館」(②)を現在の神戸市西区榎谷町松本に想定した。

それぞれに、忠国が自ら詠んだ歌を刻んだ石碑が建てられている。

また、『平家物語』に因む遺跡地「忠度塚」にも同様の石碑を立てている。

このような忠国による文学遺跡の見立てが、物語の流行とともに、広まり、『源氏物語』ゆかりや伝説の地が多く生み出され、現在に伝えられている。



『源氏物語』文学遺跡と伝説の地

①:浜の館 ②:岡の館 ③:恋の橋

『源氏物語』ゆかり・伝説の場所

「葛の細道」無量光寺の東、堀沿いの道。光源氏が明石の上の住む「岡(辺)の館」へ通った。大正10年に造られた伊藤明瑞の筆による碑がある。

「源氏稲荷」無量光寺境内。光源氏が自ら信仰する神を祀った。

「光源氏月見の松」無量光寺と岩屋神社南西の2か所に伝わる。岩屋神社には現在、境内に月見の松に見立てた松がある。(前ページ)

「源氏月見寺」無量光寺。

「光源氏月見池」朝顔光明寺(鍛冶屋町)境内の池。

「恋の橋」神戸市西区玉津町高津橋
光源氏が「岡の館」を訪ねての帰り道、明石の上のことを恋しく想い渡った橋。

「源氏岡越の松」神戸市西区榎谷町 光源氏が「岡の館」へ通った道にある松。



「岡の館」屋形碑(②)



「葛の細道」



「忠度塚」

明石市文化・スポーツ室 歴史文化財担当 078-918-5629

あかし歴史のまち
「文化財ウォーク」

明石浦の港周辺と
『源氏物語』ゆかりの
文化財を歩く



明石浦漁港

明石の町の基礎となった城下町。その城下町の西南部には多くの寺院があり、その中には『源氏物語』の舞台とされるところもあります。
明石の港近くの文化財を訪ねてみましょう。



明石市道路元標



旧船町古民家



伊弉冊神社



無量光寺

モデルコース

- 明石駅
- 徒歩5分
- 明石市道路元標
- 徒歩15分
- 旧船町古民家
- 徒歩5分
- 岩屋神社
- 徒歩5分
- 築山(つきやま)
- 徒歩5分
- 稲荷大明神
- 徒歩5分
- 明石浦漁業協同組合
- 徒歩10分
- 伊弉冊神社
- 徒歩5分
- 無量光寺(源氏物語・葛の細道)
- 徒歩すぐ
- 善楽寺(平清盛供養塔・円珠院庭園)

協力/ぶらり子午線観光ガイド連絡会
ヘリテージ明石
生船研究会
あかし市民図書館



明石の町の基礎「城下町」

元和3年(1617年)、徳川幕府2代将軍秀忠の命により小笠原忠政(のち忠貞)が明石へ入封し「明石藩」が誕生した。大坂夏の陣(1615年)により豊臣家は滅亡したが、徳川幕府にとっては旧豊臣方であった西国大名たちは大きな脅威であり、彼らに対する監視の役目として徳川家康ゆかりの重臣である本多家を姫路に配し、その後裔の明石に小笠原家を配置した。

小笠原忠政は、当初、明石川西岸の船上城に入ったが、翌年、新城の築城を命じられ、姫路藩主本多忠政と共に候補地を「人丸山」と定め、将軍秀忠の許可を得た。幕府より費用の援助と築城奉行が派遣され、城の主要部分である「本丸」「二ノ丸」「三ノ丸」の石垣・堀は幕府によって築かれた。屋敷などの建築や外堀・城下町・街道・港の整備は小笠原忠政が行った。

1 明石市道路元標 ※表紙に写真

道路の起点・終点や経過点を示していた標石。自動車移動手段の主役になり始めた大正9年(1920)に「道路法施行令」が制定され、各市町村に一基、主要道路の交差点に設置された。明石市では旧西国街道と駅前通りとの交差点に設置されたが、その後、国道整備に伴う2度の移設を経て、100年前の最初の設置場所近くに戻った。交通路の変遷や町の発展過程を伝える歴史遺産である。

2 旧船町古民家 ※表紙に写真

大正11年(1922)建築。母屋と蔵から成る。ラジオ部品などを製造販売する東洋電気具製作所(のち、東洋ライトに社名変更)を設立した平野英吉の住宅。屋敷地は20間(36.4m)×6間(10.9m)で約120坪(396.6㎡)。風通しや日光を取り入れるため、ガラス窓やガラス天井を使い工夫されている。

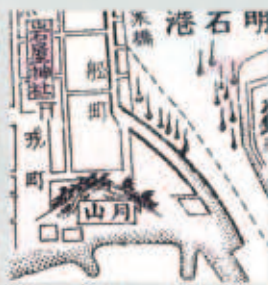
3 岩屋神社

平安時代に編纂された『延喜式神名帳』に載る古社。境内に「光源氏月見の松」に因んだ松が植えられている。



4 築山

江戸時代初期の城下町建設時に港を掘削した際に生じた土を積み上げた場所。周囲よりも高台になり、景色が良く、月見に適していた。江戸時代中期の絵図には「月見山」とあり、明治36年(1903)の「明石名勝旧跡案内図」には「月山」と記されている。



5 稲荷大明神(岬森神社)

社殿右の石碑に、大正10年(1921)の神社再建時に寄附をした人たちの名が刻まれている。その中に香川県観音寺市伊吹島の漁業者11人の名があり、明石と伊吹島との間で深い交流があったことを伝えている。



6 伊弉冊神社 ※表紙に写真

祭神の伊弉冊尊は『古事記』『日本書紀』に記される国生みの男女二神のうちの女神。奈良時代の終わり、宝亀2年(771)に境内地が寄進されたが、後に度々火災にあい、現在の社殿は昭和37年(1962)に再建されたもの。

7 無量光寺 ※表紙に写真

浄土宗。山号は月浦山。慶長18年(1613)に中興され、正保年間(1644～48)に江井ヶ島から移ってきたといわれる。移転直後の寺であったが、藩主松平忠国(在位:1649～59年)により『源氏物語』に登場する光源氏の屋敷や月見の寺に見立てられた。寺内の稲荷社には「源氏稲荷」、土曜日の道には「萬の細道」と名付けた。

また、境内には、元禄天皇14年(425)に神に供える真珠を得るため深い海底の大蛇を獲って絶命し、『万葉集』にも詠まれる伝説の海士男狭磯(アマノオサシ)を祀る塚が近年再建された。

8 善楽寺

天台宗。戒光院と円珠院の総称。大化年間(645～50)、法道仙人により開かれたと伝わる。元永2年(1119)に焼けたが、平清盛が保元元年(1156)に再建した。養和元年(1181)に清盛が亡くなると、その供養のために五輪塔が建立された。

また、『源氏物語』に登場する明石入道の館跡とされ、藩主松平忠国が詠んだ歌を刻んだ「明石入道の碑」が建てられている。「明石之浦之浜之松」の碑があり、ゆかりの松が植え継がれている。

善楽寺の内、東部に位置する円珠院は、庭園で知られている。明石の城下町建設時に町割を行い、城内の庭園を造った宮本武蔵の作と伝えられている。大・小の池、瓢箪形の枯池とそのくびれ部に架かる石橋が特徴。



平清盛供養塔



明石入道の碑



円珠院庭園